I·O DATA

WN-B11/USBH 取扱説明書

114965-01

【呼び方】

呼び方	意味
Windows XP	Microsoft® Windows® XP Professional Operating System、 Microsoft® Windows® XP Home Edition Operating Systemの総称
Windows 2000	Microsoft® Windows® 2000 Professional
Windows Me	Microsoft® Windows® Millennium Edition
Windows 98	Microsoft® Windows® 98 Operating Systemおよび Microsoft® Windows® 98 Operating System Second Editionの総称
Windows	Windows XP,Windows 2000,Windows Me,Windows 98の総称

【ご注意】

1) 本製品及び本書は株式会社アイ・オー・データ機器の著作物です。
したがって、本製品及び本書の一部または全部を無断で複製、複写、転載、改変することは法律で禁じられています。
2) 本製品及び本書の内容については、改良のために予告なく変更することがあります。
3) 本製品及び本書の内容について、不審な点やお気づきの点がございましたら、弊社PLANTコールセンターまでご連絡ください。
4) 本製品を運用した結果の他への影響については、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。
5) 本製品は「外国為替及び外国貿易法」の規定により戦略物資等輸出規制製品に該当する場合があります。国外に持ち出す際には、日本国政府の輸出許可申請などの手続きが必要になる場合があります。
6) 本サポートソフトウェアの使用にあたっては、バックアップ保有の目的に限り、各1部だけ複写できるものとします。
7) 本サポートソフトウェアに含まれる著作権等の知的財産権は、お客様に移転されません。
8) 本サポートソフトウェアのソースコードについては、如何なる場合もお客様に開示、使用許諾を致しません。また、ソースコードを解明するために本ソフトウェアを解析し、逆アセンブルや、逆コンパイル、またはその他のリバースエンジニアリングを禁止します。
9) 書面による事前承諾を得ずに、本サポートソフトウェアをタイムシェアリング、リース、レンタル、販売、移転、サブライセンスすることを禁止します。
10) 本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器、兵器システムなどの人命に関る設備や機器、及び海底中継機、宇宙衛星などの高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込んでの使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。設備や機器、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願います。
11) 本製品は日本国内仕様です。本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切の責任を負いかねます。また、弊社は本製品に関し、日本国外への技術サポート、及びアフターサービス等を行っておりませんので、予めご了承ください。(This product is for use only in Japan. We bear no responsibility for any damages or losses arising from use of, or inability to use, this product outside Japan and provide no technical support or after-service for this product outside Japan.)
12) お客様は、本サポートソフトウェアを一時に1台のパソコンにおいてのみ使用することができます。
13) お客様は、本製品または、その使用権を第三者に対する再使用許諾、譲渡、移転またはその他の処分を行うことはできません。
14) 弊社は、お客様が【ご注意】の諸条件のいずれかに違反されたときは、いつでも本製品のご使用を終了させることができるものとします。

もくじ

本製品を使うまでの手順

以下の流れにしたがって、本製品を使う環境をつくりましょう。

はじめにすること

セットアップする

必要なときに読むところ

応用操作、トラブル解決法、本製品の付属情報です。

応用編

その他

必ずお守りください

ここでは、お使いになる方への危害、財産への損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくための注意事項を記載しています。
ご使用の際には、必ず記載事項をお守りください。

■警告及び注意表示

警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人体に多大な損傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性又は物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

■絵記号の意味

この記号は注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。
記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例） 「発火注意」を表す絵表示

この記号は禁止の行為を告げるものです。
記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例） 「分解禁止」を表す絵表示

この記号は必ず行っていただきたい行為を告げるものです。
記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例） 「電源プラグを抜く」を表す絵表示

⚠ 警告

本製品を使用する場合は、ご使用のパソコンや周辺機器のメーカーが指示している警告、注意表示を厳守し、正しい手順で使用してください。

警告・注意事項を無視すると人体に多大な損傷を負う可能性があります。
また、正しい手順で操作しない場合、予期せぬトラブルが発生する恐れがあります。ご使用のパソコンや周辺機器のメーカーが指示している警告、注意事項、正しい手順を厳守してください。

本製品をご自分で修理・分解・改造しないでください。

火災や感電、やけど、故障の原因となります。
修理は弊社修理係にご依頼ください。分解したり、改造した場合、保証期間であっても有償修理となる場合があります。

煙が出たり、変な臭いや音がしたら、すぐに使用を中止してください。

電源がある場合は、電源を切ってコンセントからプラグを抜いてください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

本製品の取り扱いは、必ず取扱説明書で接続方法をご確認になり、以下のことにご注意ください。

●接続ケーブルなどの部品は、必ず添付品または指定品をご使用ください。指定品以外を使用すると火災や故障の原因となります。
●ケーブルにものをのせたり、引っ張ったり、折り曲げ・押しつけ・加工などは行わないでください。火災や故障の原因となります。
●ボード製品の場合は、指定されたスロットにきちんと差し込んでください。正しく装着されていないと、火災および故障の原因となります。

本製品の取り付け、取り外し、移動の際は、本製品の取扱説明書をご確認になり、必ずパソコン本体・周辺機器および本製品※の電源スイッチを切り、コンセントからプラグを抜いてから行ってください。

※電源スイッチを持っていない製品、Plug & Play製品（USB,IEEE 1394,PCカードなど）は除く。

電源コードを抜かずに行うと、感電および故障の原因となります。

本製品を濡らしたり、水気の多い場所で使用しないでください。

お風呂場、雨天・降雪中、海岸・水辺での使用は火災・感電・故障の原因となります。

決められた電流内で使用してください。

本製品を出力電流の絶対最大定格を超えた電流で使用または保管すると火災・感電・故障の原因となります。

故障や異常のまま、通電しないでください。

本製品に故障や異常がある場合は、必ずパソコンから取り外してください。また、電源や AC アダプタがある場合は、通電をしないでください。そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。

本製品を病院内で使用しないでください。

医療機器の誤動作の原因になることがあります。

心臓ペースメーカーの装着部位から 22cm 以上離して使用してください。

電波によりペースメーカーの動作に影響を与える恐れがあります。

本製品を飛行機の中で使用しないでください。

飛行機の計器などの誤動作の原因になります。飛行機の中ではコンピュータから本製品を取り外してください。

日本国外で使用できません。

⚠ 注意

注意

本製品を使用する際に、取扱説明書などでの操作手順説明と異なった操作をしてデータが消失した場合は、データの保証は一切いたしかねます。

取扱説明書などで、操作方法を確認して操作してください。
また、故障に備えて定期的にバックアップを行ってください。
修理の際、検査のためにデータの消去などを行う場合があります。修理にお出しになる前にもバックアップを行ってください。

禁止

本製品は以下のような場所（環境）で保管・使用しないでください。

故障の原因となることがあります。
●振動や衝撃の加わる場所
●直射日光のあたる場所
●湿気やホコリが多い場所
●温湿度差の激しい場所
●熱の発生する物の近く（ストーブ、ヒータなど）
●強い磁力・電波の発生する物の近く
（磁石、ディスプレイ、スピーカ、ラジオ、無線機など）
●水気の多い場所（台所、浴室など）
●傾いた場所
●本製品に通風孔がある場合は、その通風孔をふさぐような場所
（保管は問題ありません）
●腐食性ガス雰囲気中（Cl_2、H_2S、NH_3、SO_2、NO_Xなど）
●静電気の影響の強い場所
●保温性・保湿性の高い（じゅうたん・スポンジ・ダンボール箱・発泡スチロールなど）場所（保管は問題ありません）

禁止

本製品は精密部品です。以下のことにご注意ください。

●落としたり、衝撃を加えたり、無理な力を加えたりしない
●本製品の上に水などの液体や、クリップなどの小部品を置かない
●重いものを上にのせない
●本製品内部に液体、金属、たばこの煙などの異物を入れない

本製品のコネクタ部分には直接手を触れないでください。

静電気が流れ、部品が破壊されるおそれがあります。また、静電気は衣服や人体からも発生するため、本製品の取り付け・取り外しは、スチールキャビネットなどの金属製のものに触れて、静電気を逃がした後で行ってください。

パソコンから本製品にアクセス中（LINKランプ点灯中）に電源を切ったり、パソコンをリセットしないでください。

故障の原因になったり、データが消失するおそれがあります。

本製品で使用する電波について

本製品は、2.4GHz帯域の電波を使用しています。
本製品を使用する上で、無線局の免許は必要ありませんが、以下および次ページの注意をご確認ください。

・*以下の近くでは使用しないでください。*

・電子レンジ／ペースメーカー等の産業・科学・医療用機器など
・工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）
・特定小電力無線局（免許を要しない無線局）

上記の機器などは、無線LANと同じ電波の周波数帯を使用しています。
上記の近くで本製品を使用すると、電波の干渉を発生する恐れがあります。
そのため、通信ができなくなったり速度が遅くなったりする場合があります。

・*携帯電話/PHS/テレビ/ラジオを本製品の近くでは、できるだけ使用しないでください。*

携帯電話/PHS/テレビ/ラジオなどは、無線LANとは異なる電波の周波数帯を使用しています。
そのため、本製品の近くでこれらの機器を使用しても、本製品の通信やこれらの機器の通信に影響はありません。
ただし、これらの機器を無線LAN製品に近づけた場合は、本製品を含む無線LAN製品が発する電磁波の影響によって、音声や映像にノイズが発生する場合があります。

・*間に鉄筋や金属およびコンクリートがあると通信できません。*

本製品で使用している電波は、通常の家屋で使用されている木材やガラスなどは通過しますので、部屋の壁に木材やガラスがあっても通信できます。
ただし、鉄筋や金属およびコンクリートなどが使用されている場合、電波は通過しません。部屋の壁にそれらが使用されている場合、通信することはできません。
同様にフロア間でも、間に鉄筋や金属およびコンクリートなどが使用されていると通信できません。

2.4GHz帯使用の無線機器について

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器等のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）及び特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。

・この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局が運営されていないことを確認してください。

・万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数帯を変更するか、または電波の発射を停止した上、下記連絡先にご連絡いただき、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談ください。

・その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きた場合は、次の連絡先へお問い合わせください。

連絡先:PLANT コールセンター　電話:　金沢　076-260-3644
東京　03-3254-1144

2.4　DS　4

2.4：2.4GHz 帯を使用する無線設備を表す
DS　：変調方式を表す
4　：想定される与干渉距離を表す（<=40m）
■■■：全帯域を使用し、かつ、移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味する。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

使用上の注意

本製品は非常に精密にできておりますので、お取り扱いに際しては十分注意してください。

・取り扱い上の注意

・コネクタ部分に金属を差し込まないでください。
・ぬらさないでください。
・ラジオやテレビ、オーディオ機器の近くでは高周波の信号により、ノイズを与えることがあります。
・モータなどノイズが発生する機器の近くでは誤動作することがありますので、必ず離してお使いください。

・使用上の注意

・本製品はパソコンの「スタンバイ」、「スリープ機能」、「レジューム」、「ハイバネーション」には対応しておりません。
本製品を使用する場合は、これらの機能は無効に設定してください。

・修理について

・本製品の修理は弊社修理センターにご依頼ください。
改造などを行って、電気的および機械的特性を変えて使用することは絶対にお止めください。

使う前に

ここでは、本製品を使う前の作業について、順を追って説明しています。

箱の中を確認する

内容物リストを確認します。

☞ 12ページ

▼

動作環境を確認する

本製品を使うことができる機種やOSなどを確認します。

☞ 13ページ

各部のなまえとはたらき

本製品の各部のなまえとはたらきを確認します。

☞ 14ページ

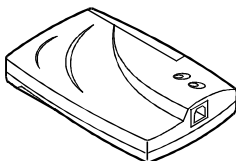
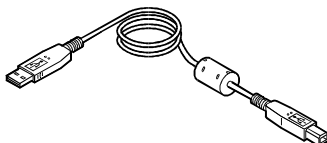
箱の中を確認する

ご使用の前に以下のものがそろっていることを □ にチェックをつけながらご確認ください。

万一、不足品がありましたら、弊社サポートセンターまでお知らせください。

注意！

- **箱や梱包材は大切に保管し、修理などの輸送の際にご利用ください。**
- **イラストは若干異なる場合があります。**

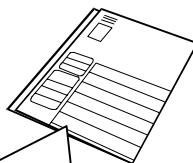
□ 本製品（1台）

□ USBケーブル（1本：1m）

□ サポートソフトディスク（1枚）
［CD-ROM］

☑ 取扱説明書（1冊）

□ キャリングホルダー（1個）

□ ハードウェア保証書（1枚）

□ 「無線LANについて」シール（1枚）

□ ユーザー登録カード（1枚）

「ユーザー登録カード」に登録方法が記載されています。
登録してから次ページへ進みましょう。

動作環境を確認する

本製品の動作環境を確認します。

動作環境

USBポート（弊社製USBインターフェイス含む）を搭載し、
CD-ROMドライブ（インストール用）を搭載※1※2した下記の機種・OS

対応機種※3	対応OS
・NEC PC98-NXシリーズ ・DOS/Vマシン 弊社では、OADG加盟メーカーのDOS/Vマシンで動作確認をしております。	・Windows XP ・Windows 2000 ・Windows Me ・Windows 98（Second Edition含む）

※1　CD-ROMドライブが無い場合は、81ページをご覧ください。
※2　USB接続のCD-ROMドライブを使用している場合は、81ページをご覧ください。
※3　SiSチップ搭載機は動作保証対象外となります。

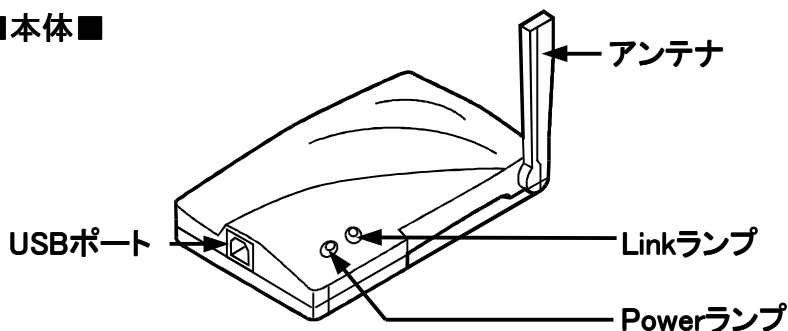
通信可能機器

IEEE802.11/IEEE802.11b準拠の無線LAN製品と通信できます。
有線LAN（LANケーブルで接続されたネットワーク）と接続するには、
アクセスポイント（弊社製WN-B11/AXPなど）が必要です。
《弊社無線LAN WN-B11シリーズ》
・無線LAN USBアダプタ「WN-B11/USBH」「WN-B11/USB」
・無線LAN PCカード「WN-B11/PCMH」「WN-B11/PCM」
・無線LANアクセスポイント「WN-B11/AXP」
・無線ブロードバンドルータ「WN-B11/BBRH」「WN-B11/BBR」
・無線プリントサーバ「WN-B11/PRS」
・無線ISDNルータ「WN-B11/INS」

本製品は、以下とは通信できません。
- **弊社製 無線LAN WN-A54 シリーズ**
- **弊社製 無線LAN PC カード PCWN-W10**
- **弊社製 コードレスネットワークシンフォニーシリーズ（WN-S/560, WN-S/PCI, PCWN-S）**
- **弊社製 無線スイッチングハブ WNA-FSWH4**

各部のなまえとはたらき

各部のなまえとはたらきを確認します。

■本体■

USBポート (Bタイプ)	添付のUSBケーブルでパソコン本体(またはUSBインターフェイス)のUSBポートと接続するためのポートです。
Power ランプ	本製品の電源が入っていると緑色に点灯します。
Link ランプ	緑色点滅：通信できる他の無線LAN製品を探している状態、または、他の無線LAN製品と通信できる状態 消灯　　：機能が停止している状態（パソコンから取り外せる状態）
アンテナ	電波の送受信部です。

■USBケーブル■

Aプラグ　**Bプラグ**

Ａプラグ	パソコン本体（またはUSBインターフェイス）のUSBポートに接続する側のプラグです。
Ｂプラグ	本製品のUSBポートに接続する側のプラグです。

インストールする

本製品のセットアップをします。

①アクセスポイントを設置する

アクセスポイントの設置をし、アクセスポイントの設定などを確認します。

▼

☞ 16ページ

②本製品をつなぐ

本製品をパソコンにつなぎます。

▼

☞ 17ページ

③ドライバをインストールする

本製品のドライバをインストールします。OSごとに方法は異なります。

▼

☞ 20ページ

④ユーティリティをインストールする

Windows XP以外のOSでは、本製品を設定するための設定ユーティリティをインストールします。

☞ 38ページ

①アクセスポイントを設置する

無線LANアクセスポイントと通信する場合は、次のように設置をしておいてください。

1 アクセスポイントの電源を入れた状態で設置します。

アクセスポイントの設置方法については、アクセスポイントの取扱説明書をご覧ください。

2 アクセスポイントの「SSID」（ESSID）をメモします。

アクセスポイント取扱説明書をご覧になり、下に書き込んでください。
※SSIDは【アクセスポイントと通信する】の設定で使用します。

▼確認したSSID(ESSID)を記入してください。

SS ID(ESS ID)	

3 アクセスポイントの[暗号キー]をご確認ください。

アクセスポイントの取扱説明書をご覧ください。
暗号化されている場合は暗号キーをメモしてください。
※暗号キーは【アクセスポイントと通信する】で使用します。

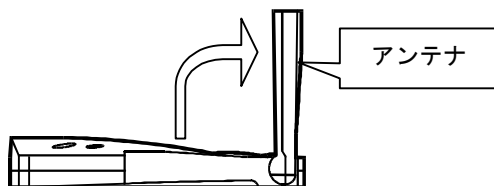
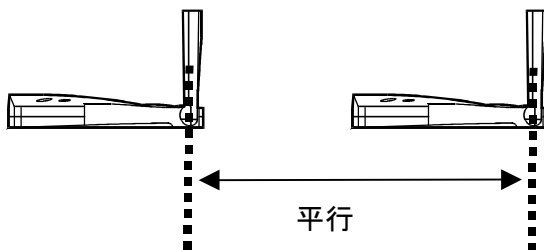
●SS IDとは？
複数の無線ネットワークが存在する場合に、それらをグループ化するための識別子（ID）です。SS IDが一致していないと、そのネットワークには参加できません。アクセスポイントによっては、SS IDがESS IDと記載されている場合もあります。

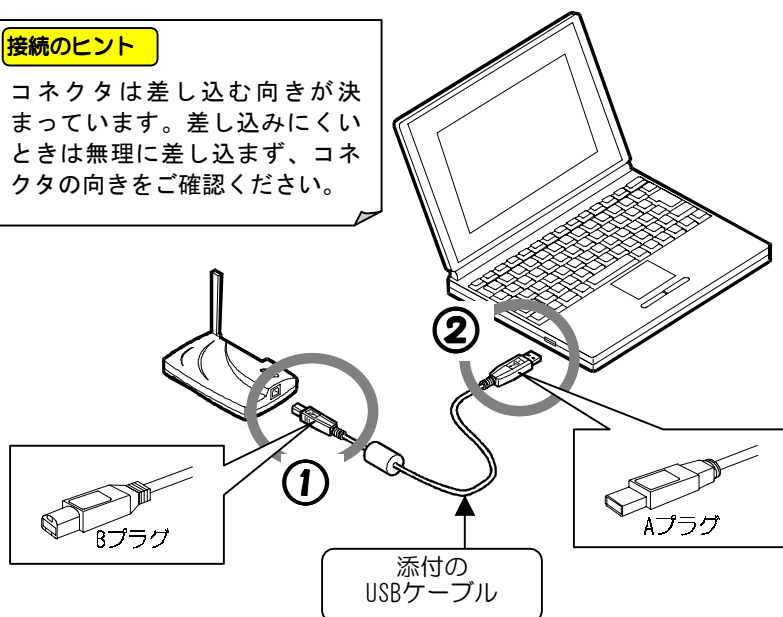
②本製品をつなぐ

本製品をパソコンのUSBポートにつなぎます。

1 パソコンの電源を切ります。

2 本製品のアンテナを立てて固定します。

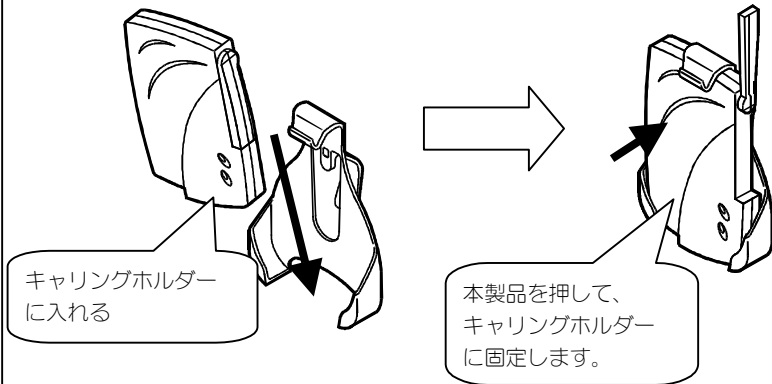
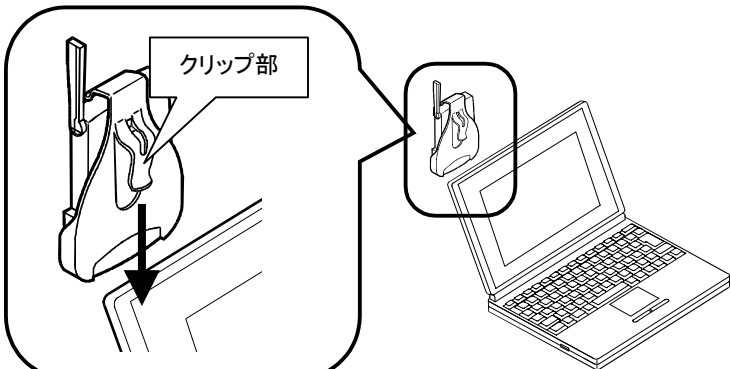
▼本製品をアンテナ側から見た図

アンテナは、なるべく他の通信する機器のアンテナと平行となるように立ててください。また、環境により通信状況が異なるため、後で設定ユーティリティを使用して電波の受信状態が最適なポジションになるように合わせてください。

3 添付のUSBケーブルで本製品とパソコンを接続します。

①本製品のUSBポートに、USBケーブルのBプラグを接続します。
②パソコンやUSBハブのUSBポートにUSBケーブルのAプラグを接続します。
③かるく引っ張って抜けないことをご確認ください。

注意！

本製品を USB ハブ経由でご利用になる場合は、USB ハブがセルフパワー動作している必要があります。
パソコンの電源を入れる際には、USB ハブの AC アダプタがコンセントに挿しこまれていることを確認してください。

以上で取り付けは終了です。【②ドライバをインストールする】（20ページ）へお進みください。

参考

添付のキャリングホルダーを使用すれば、本製品をノートパソコンに固定したまま、パソコンを移動できます。下記の手順にしたがって取り付けてください。
クリップ部をノートパソコンなどの液晶パネルに接触させると破損の原因となります。取り付け場所には充分ご注意ください。

③ドライバをインストールする

本製品を使うには、はじめにドライバをインストールする必要があります。
ここでは、各OSに本製品のドライバをインストールします。

お使いのパソコンのOSごとに、インストール方法が異なります。
以下の必要なページのみご覧ください。

●Windows XPでご使用の場合
⇒【Windows XP】（次ページ～23ページ）

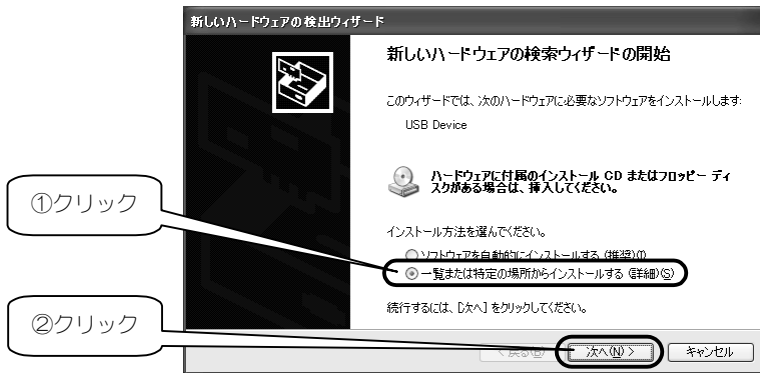
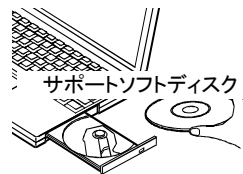
●Windows 2000でご使用の場合
⇒【Windows 2000】（24ページ～28ページ）

●Windows Meでご使用の場合
⇒【Windows Me】（29ページ～32ページ）

●Windows 98でご使用の場合
⇒【Windows 98】（33ページ～37ページ）

Windows XP

1 管理者権限のあるユーザーでWindows XPにログインします。

2 [一覧または特定の場所…]をチェックして、[次へ]ボタンをクリックします。

3 サポートソフトディスクをCD-ROMドライブにセットします。

Windows XP（つづき）

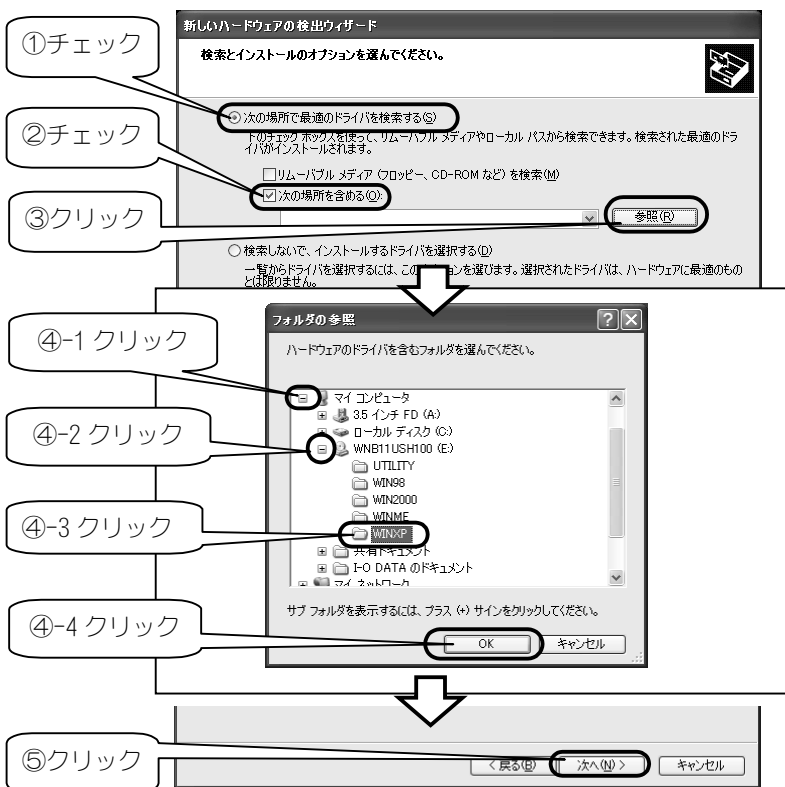
4 ドライバの検索場所を指定します。

①［次の場所で最適のドライバを検索する］をチェックします。

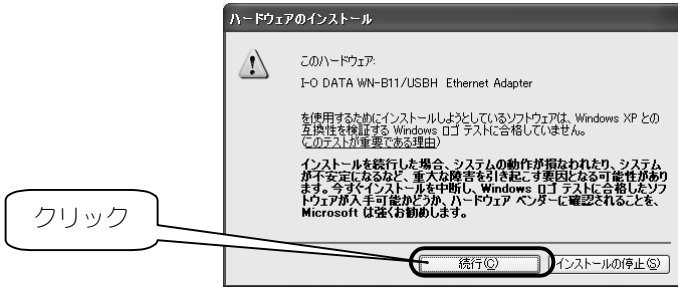
②［次の場所を含める］のみをチェックします。
（その他の項目のチェックは外してください。）

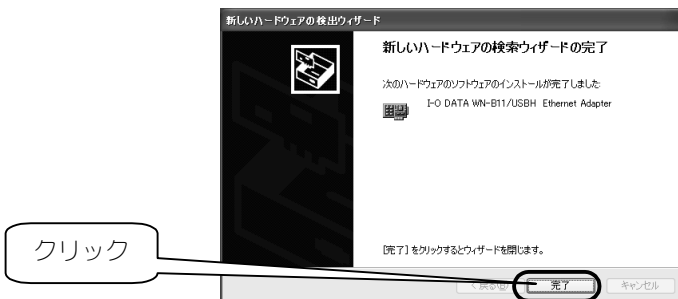
③［参照］ボタンをクリックします。

④［マイコンピュータ］→CD-ROMドライブ→［WINXP］を順にクリックして、［OK］ボタンをクリックします。

⑤［次へ］ボタンをクリックします。

Windows XP（つづき）

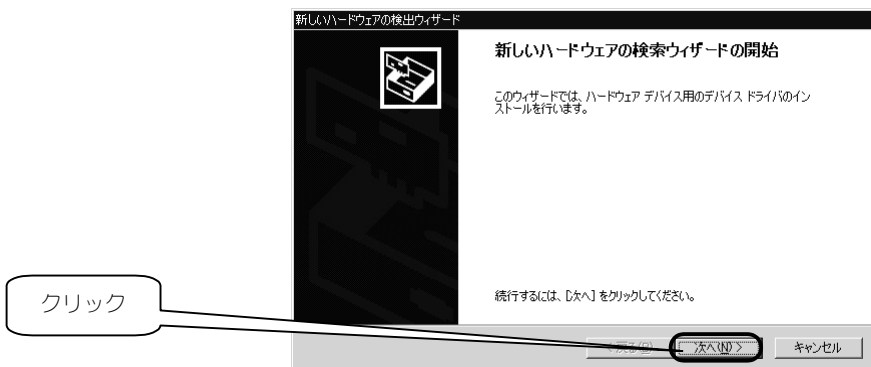
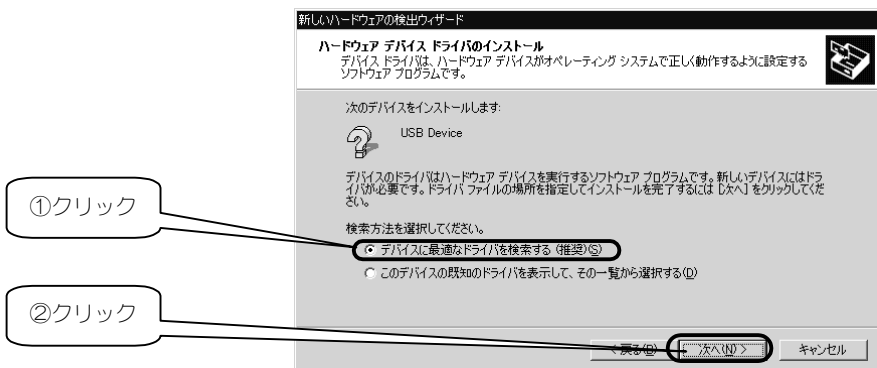
5 ［続行］ボタンをクリックします。

ボタンをクリック後、ファイルのコピーを開始します。

弊社製ソフトウェアが確認された時点で、マイクロソフトが認証するソフトウェアでは無いというメッセージが表示されますが、そのまま続行します。（特に問題ありません。）
→マイクロソフト社はWHQLという組織において、パソコン本体や周辺機器などを対象とした認定手続きを実施しております。
このたびお買い上げ頂いた製品は、現時点では認定を受けておりません。

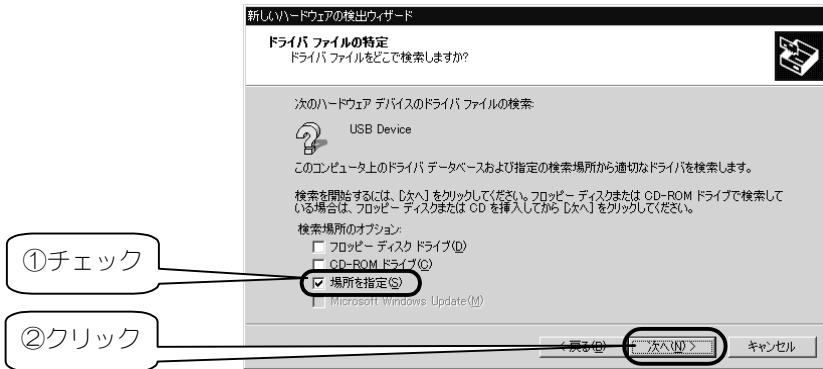
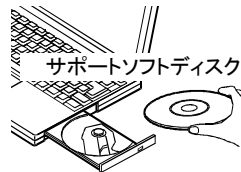
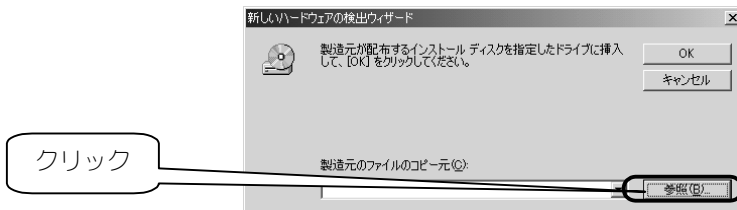
6 しばらくして以下の画面が表示されたら、サポートソフトを取り出し、［完了］ボタンをクリックします。

以上でインストールは終了です。【アクセスポイントと通信する】（39ページ）へお進みください。

Windows 2000

1 Administrator権限のあるユーザーでログインします。

2 [次へ]ボタンをクリックします。

3 [デバイスに最適な…]にチェックを付け、[次へ]ボタンをクリックします。

Windows 2000（つづき）

4　[場所を指定]のみにチェックを付け、[次へ]ボタンをクリックします。

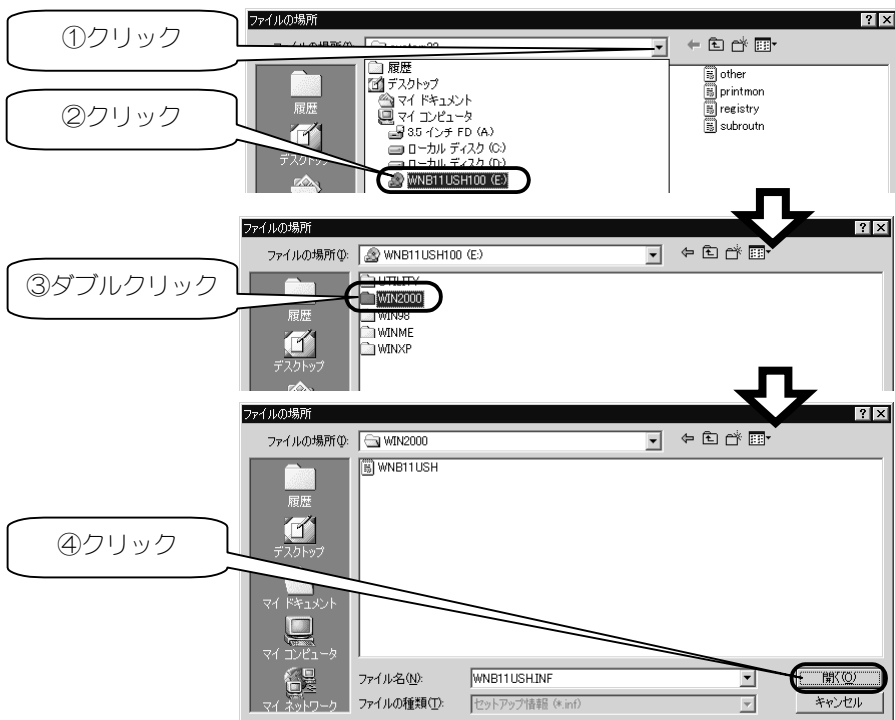
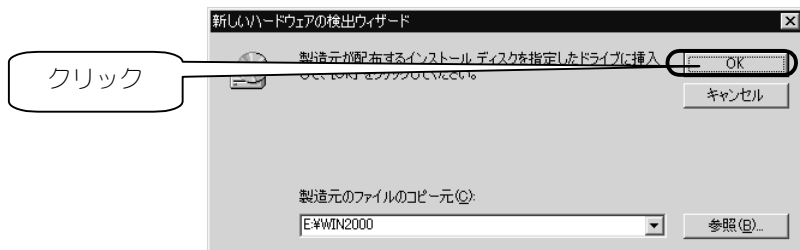
他のチェックは外してください。

5　サポートソフトディスクをCD-ROMドライブにセットします。

6　[参照]ボタンをクリックします。

Windows 2000（つづき）

7 **CD-ROMの[WIN2000]フォルダを指定し、[開く]ボタンをクリックします。**

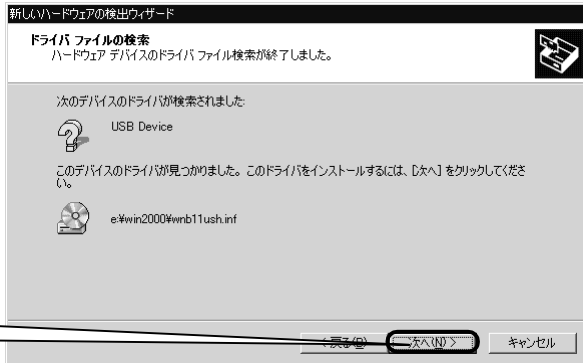
①クリック

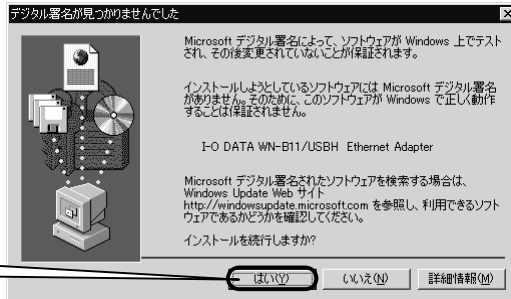
②クリック

③ダブルクリック

④クリック

8 **[OK]ボタンをクリックします。**

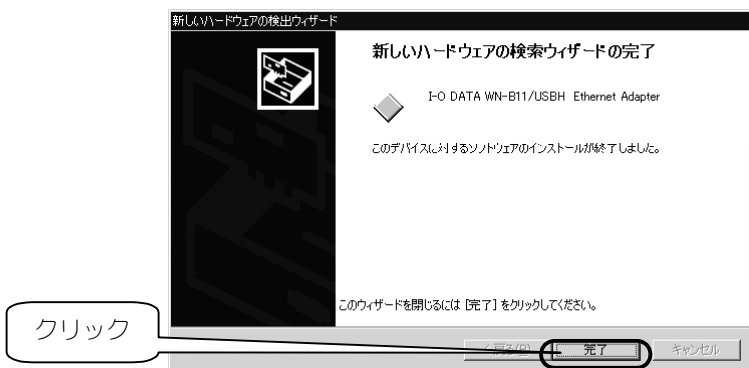
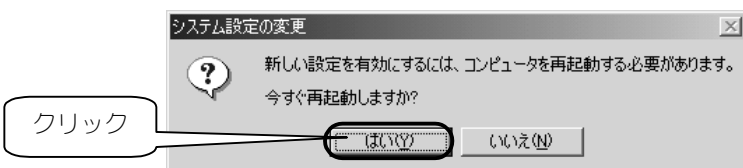
Windows 2000（つづき）

9 [次へ]ボタンをクリックします。

10 [はい] ボタンをクリックします。

ボタンをクリック後、ファイルのコピーを開始します。

弊社製ソフトウェアが確認された時点で、マイクロソフトが認証するソフトウェアでは無いというメッセージが表示されますが、そのまま続行します。（特に問題ありません。）

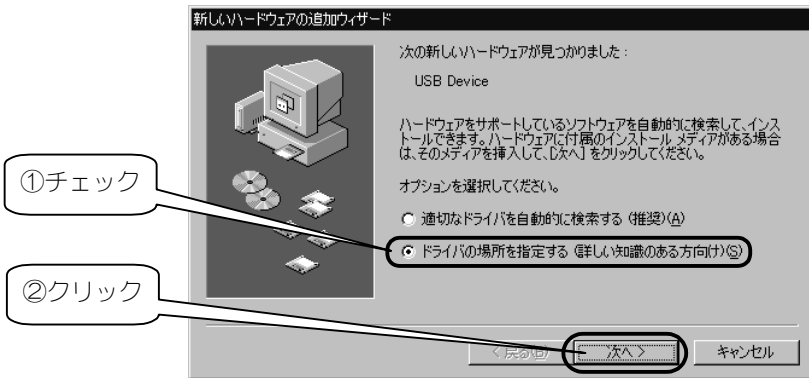
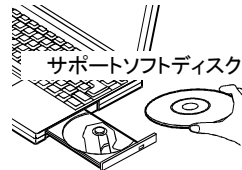
→マイクロソフト社はWHQLという組織において、パソコン本体や周辺機器などを対象とした認定手続きを実施しております。
このたびお買い上げ頂いた製品は、現時点では認定を受けておりません。

Windows 2000（つづき）

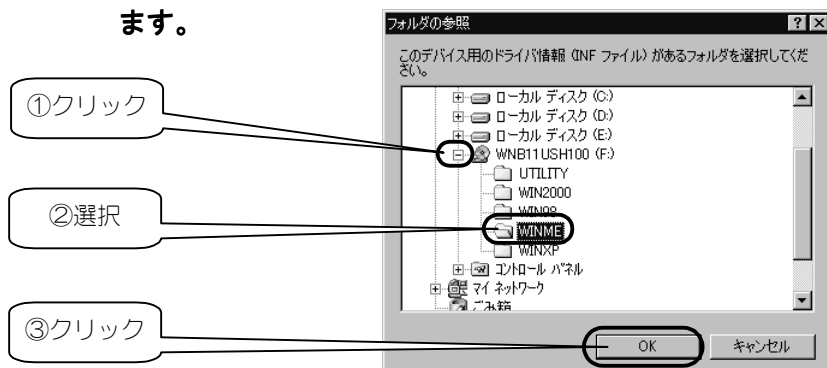
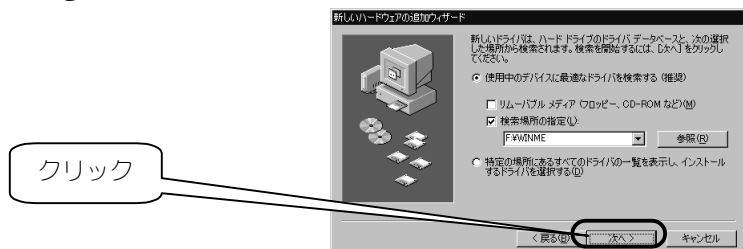
11 しばらくして以下の画面が表示されたら、［完了］ボタンをクリックします。

12 再起動の画面が表示される場合は、[はい]をクリックして、パソコンを再起動します。

以上でドライバのインストールは終了です。【④ユーティリティをインストールする】（38ページ）へお進みください。

Windows Me

1 パソコンを起動します。

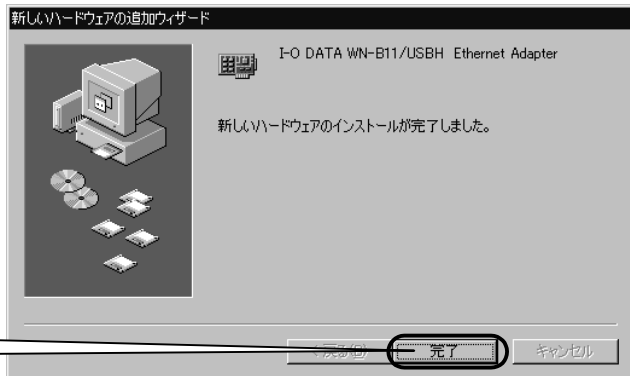
2 [ドライバの場所を指定…]を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。

3 サポートソフトディスクをCD-ROMドライブにセットします。

Windows Me（つづき）

4 [検索場所の指定]<u>のみ</u>にチェックを付け、[参照]ボタンをクリックします。

5 CD-ROMの[WINME]フォルダを指定し、[OK]ボタンをクリックします。

6 [次へ]ボタンをクリックします。

Windows Me（つづき）

7 ［次へ］ボタンをクリックします。

8 ［完了］ボタンをクリックします。

→この後、他の画面が表示された場合は、次ページをご覧ください。

［I-O DATA WN-B11/USBH Ethernet Adapter］と表示されていない場合は、［戻る］ボタンをクリックして、手順7，8の画面（検索場所の指定でCD-ROMドライブの「WINME」フォルダが指定されていること）を確認してください。

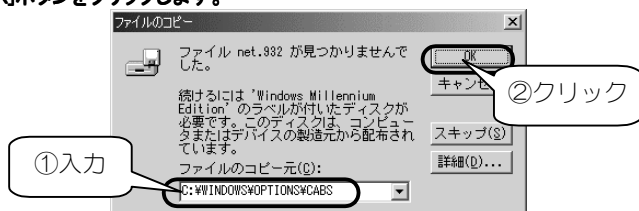
Windows Me（つづき）

[ファイルのコピー]画面が表示される場合があります。

●お使いのパソコンがWindows Meプリインストールモデルの場合

→①[ファイルのコピー元]欄を以下のように指定します。

[C:¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS]

（Windows MeがインストールされているドライブがCドライブの場合の例）

②[OK]ボタンをクリックします。

●他のWindowsからアップグレードインストールした場合（CD-ROMからWindows Meをインストールした場合）

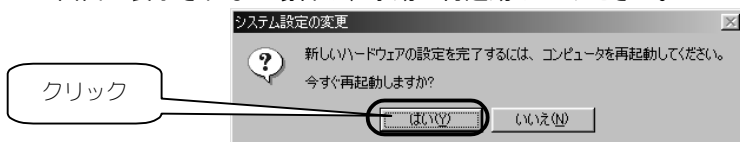
→①[ファイルのコピー元]欄を以下のように指定します。

[C:¥WINDOWS¥OPTIONS¥INSTALL]

（Windows MeがインストールされているドライブがCドライブの場合の例）

②[OK]ボタンをクリックします。

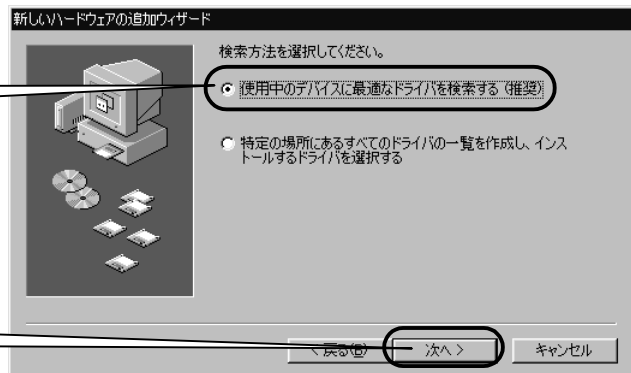
9 [はい]をクリックして、パソコンを再起動します。

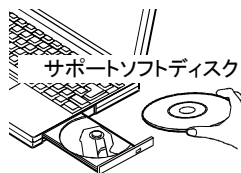
画面が表示されない場合は、手動で再起動してください。

以上でドライバのインストールは終了です。【④ユーティリティをインストールする】（38ページ）へお進みください。

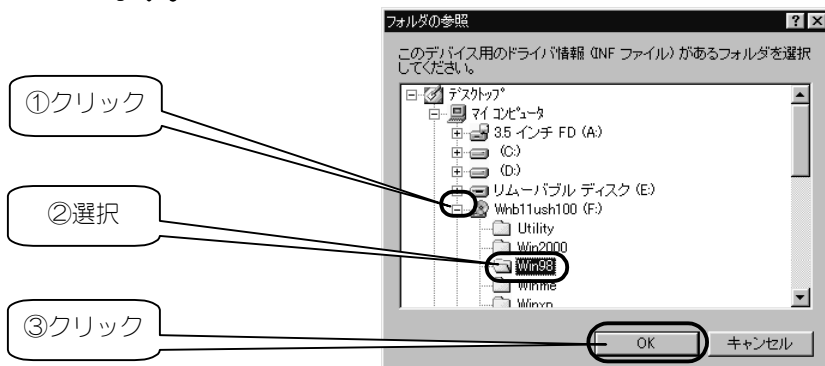
Windows 98

1　パソコンを起動します。

2　[次へ]ボタンをクリックします。

3　[使用中のデバイス…]にチェックを付け、[次へ]ボタンをクリックします。

Windows 98（つづき）

4 サポートソフトディスクをCD-ROMドライブにセットします。

5 [検索場所の指定]のみにチェックを付け、[参照]ボタンをクリックします。

6 CD-ROMの[WIN98]フォルダを指定し、[OK]ボタンをクリックします。

Windows 98（つづき）

7 [次へ]ボタンをクリックします。

8 [次へ]ボタンをクリックします。

→この後、他の画面が表示された場合は、次ページ～をご覧ください。

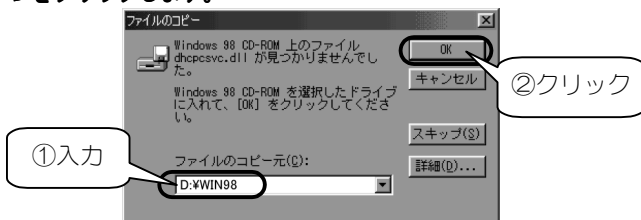
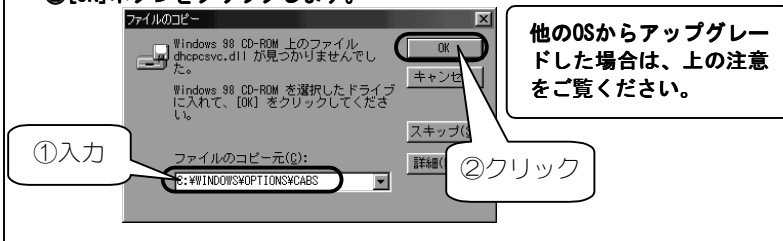
参考

[I-O DATA WN-B11/USBH Ethernet Adapter]と表示されていない場合は、[戻る]ボタンをクリックして、手順6の画面（検索場所の指定でCD-ROMドライブの「WIN98」フォルダが指定されていること）を確認してください。

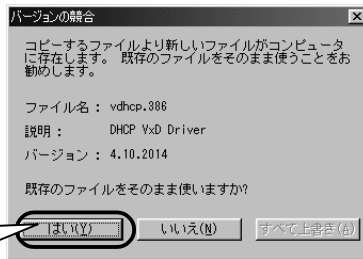
9 [完了]ボタンをクリックします。

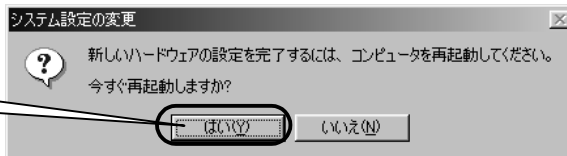
Windows 98（つづき）

「Windows 98 CD-ROM」(「Windows 98 Second Edition CD-ROM」）を要求された場合は…
→① 「Windows 98 CD-ROM」(または「Windows 98 Second Edition CD-ROM」）を CD-ROM ドライブにセットします。
②[OK]ボタンをクリックします。

さらに、以下の画面が表示された場合は…
→①[ファイルのコピー元]欄を以下のように指定します。
[D:¥WIN98]　　（CD-ROM ドライブが D ドライブの場合）
②[OK]ボタンをクリックします。

［ファイルのコピー]画面で、お使いのパソコンが Windows 98 プリインストールモデルの場合は…
→①[ファイルのコピー元]欄を以下のように指定します。
[C:¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS]
（Windows 98 がインストールされているドライブが C ドライブの場合の例）
②[OK]ボタンをクリックします。

Windows 98（つづき）

注意！

［バージョンの競合］画面が表示された場合は
→［はい］ボタンをクリックします。
※複数の［バージョンの競合］画面が表示された場合は、すべて［はい］ボタンをクリックしてください。

10 [はい]ボタンをクリックして、パソコンを再起動します。

画面が表示されない場合は、手動で再起動してください。

以上でドライバのインストールは終了です。【④ユーティリティをインストールする】（次ページ）へお進みください。

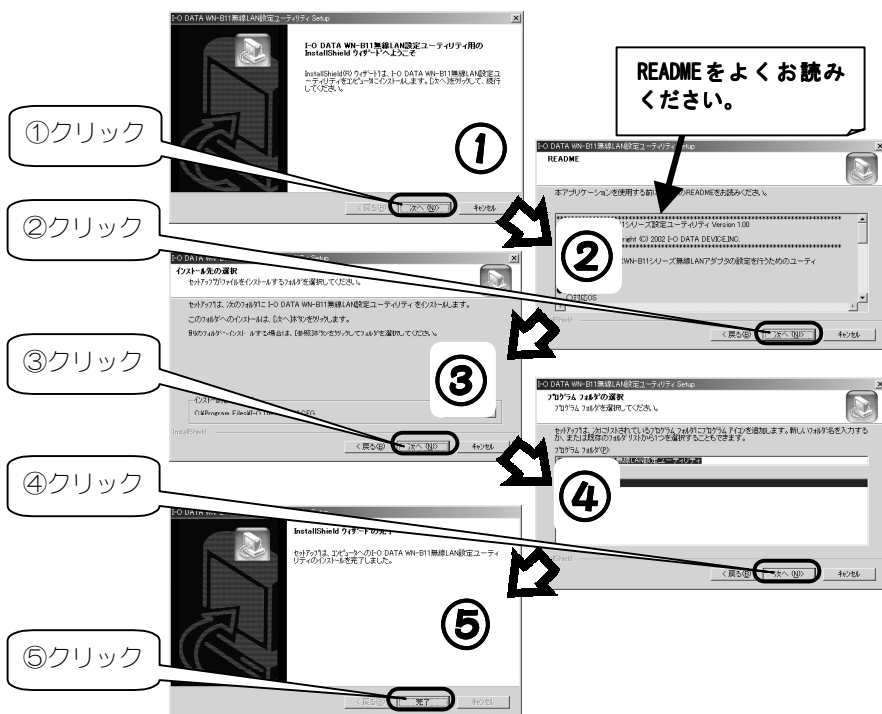
④ユーティリティをインストールする

Windows XP以外のOSの場合は、本製品の設定をするための「設定ユーティリティ」をインストールします。(Windows XPにはインストールしないでください)

1 [マイコンピュータ]内のCD-ROMアイコンをダブルクリックし、[Utility]フォルダ内の[SETUP]アイコンをダブルクリックします。

2 画面の指示にしたがいます。

①クリック
②クリック
③クリック
④クリック
⑤クリック

READMEをよくお読みください。

以上でユーティリティのインストールは終了です。CD-ROMを取り出してください。【アクセスポイントと通信する】(次ページ)へお進みください。

アクセスポイントと通信する

「インフラストラクチャ」モード

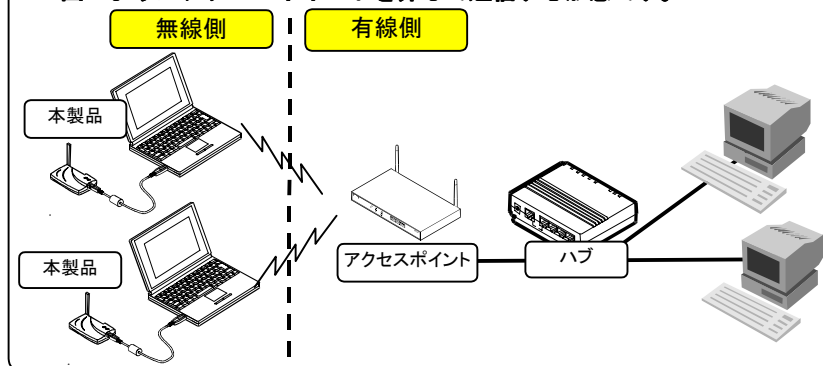
本製品とアクセスポイントを使用して通信するための設定をします。

インフラストラクチャの設定をする

アクセスポイントを介して通信する（インフラストラクチャモード）ための設定をします。

☞ 40ページ

インフラストラクチャモードとは？

図のようにアクセスポイントを介して通信する形態です。

アクセスポイントを使用しない（無線LANアダプタのみで通信する）場合は、【無線LANアダプタのみで通信する】(47ページ)へお進みください。

インフラストラクチャの設定をする

アクセスポイントを介して通信する（インフラストラクチャモード）ための設定をします。

●ここで設定すること
アクセスポイントと通信する際は、本製品で以下の設定が必要です。
［SS ID］や［暗号キー］が同じでないと通信できません。
本製品の設定の前にアクセスポイントの設定を確認しておいてください。
▼本製品に必要な設定

モード	［インフラストラクチャ］
SS ID	16ページで記入した［SS ID］
暗号キー	アクセスポイントと同じ［暗号キー］ （設定方法は【通信を暗号化する】(59ページ)参照）

●接続するパソコンのネットワーク設定を、完了しておいてください。
詳しくはネットワーク管理者やアクセスポイントの取扱説明書をご確認ください。

お使いのパソコンのOSごとに、設定方法が異なります。
以下の必要なページのみご覧ください。

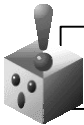
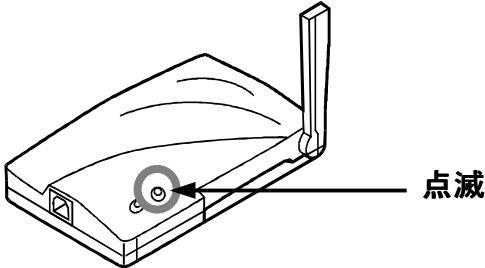
●Windows XPでご使用の場合
⇒【Windows XP】（次ページ）

●Windows XP以外のOSでご使用の場合
⇒【Windows XP以外】（44ページ）

Windows XP

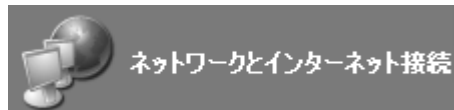
1　アクセスポイントの電源が入っていることを確認します。

2　本製品を装着したパソコンの電源を入れます。

本製品の［LINK］ランプが緑色に点滅することを確認してください。

［LINK］ランプが
消灯している場合は…

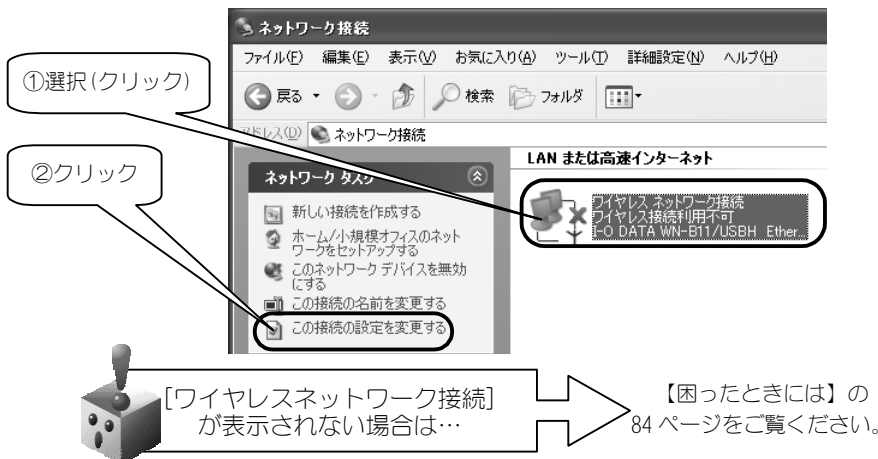
【困ったときには】の
80 ページをご覧ください。

3　[スタート]→[コントロールパネル]をクリックします。

4　[ネットワークとインターネット接続]をクリックします。

[クラシック表示]の場合は、[ネットワーク接続]アイコンをダブルクリックして手順4へお進みください。

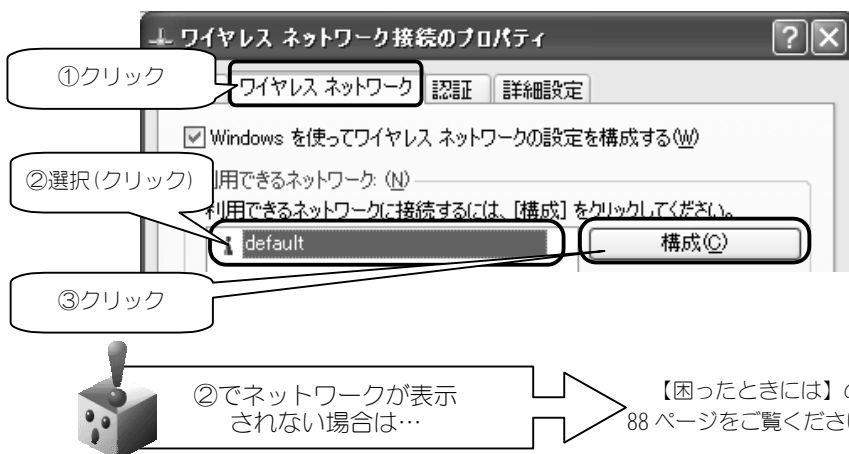
5　[ネットワーク接続]をクリックします。

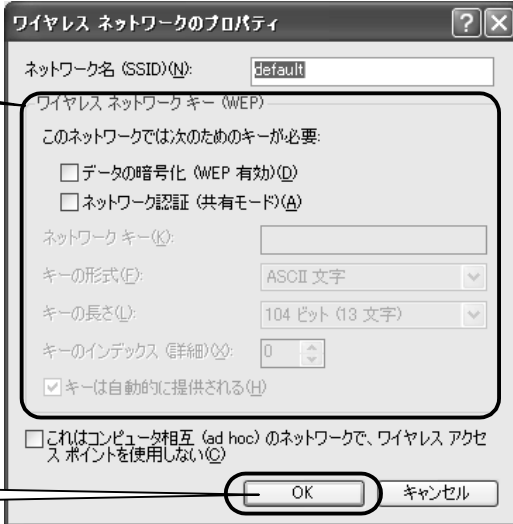
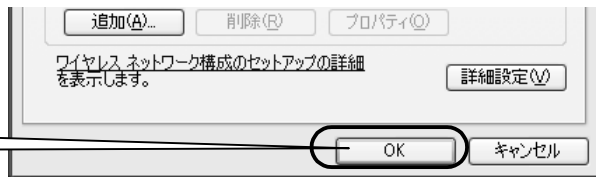
Windows XP（つづき）

6 インストール済みの[ワイヤレスネットワーク接続]アイコンを選択し、[この接続の設定を変更する]をクリックします。

7 通信するネットワークを選択します。

①[ワイヤレスネットワーク]タブをクリックします。

②[利用できるネットワーク]で16ページで確認したSSIDを選択します。

③[構成]ボタンをクリックします。

Windows XP（つづき）

8　通信するアクセスポイントが暗号化(WEP)を設定している場合は設定をして、[OK]ボタンをクリックします。

9　[ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ]へ戻りますので、[OK]ボタンをクリックします。

以上で設定は完了です。
ファイルの共有をする場合は、【ファイルを共有する】（103ページ）をご覧ください。

Windows XP以外

1　アクセスポイントの電源が入っていることを確認します。

2　本製品を装着したパソコンの電源を入れます。

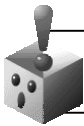
本製品の［LINK］ランプが緑色に点滅することを確認してください。

3　設定ユーティリティを起動します。

［スタート］→［プログラム］→［I-O DATA WN-B11無線LAN設定ユーティリティ］→［設定ユーティリティ］を順にクリックします。

Windows XP以外（つづき）

4 ［リンク状況］タブで、16ページで確認したSSIDのプロファイルを選択し、[接続]ボタンをクリックします。

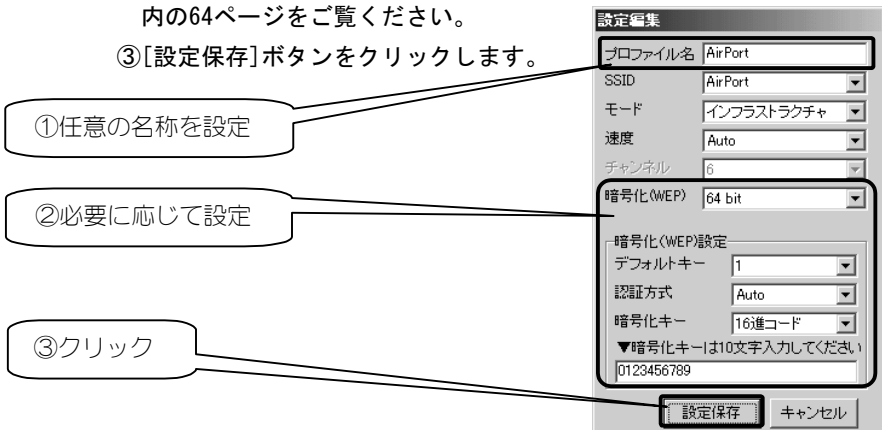
→[設定編集]画面が表示されます。

①で、確認したSSIDが表示されない場合は…

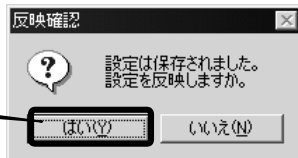
【困ったときには】の88ページをご覧ください。

5 設定編集します。

①プロファイル名に任意の名称を設定します。

②必要に応じて暗号化設定をします。詳しくは、【通信を暗号化する】内の64ページをご覧ください。

③[設定保存]ボタンをクリックします。

Windows XP以外（つづき）

6 ［はい］ボタンをクリックして、設定を保存します。

7 正常に通信できていることを確認します。

正常に通信できている場合、【リンク状況】の［通信状況］で［状態］が"接続中..."と表示されます。

確認後、［閉じる］ボタンをクリックして、画面を閉じてください。

以上で設定は完了です。
ファイルの共有をする場合は、【ファイルを共有する】（103ページ）をご覧ください。

無線LANアダプタのみで通信する

アドホックモード

無線LANアダプタのみで使用する場合の設定を説明します。

①使用環境を確認する

本製品を使用する環境を確認します。

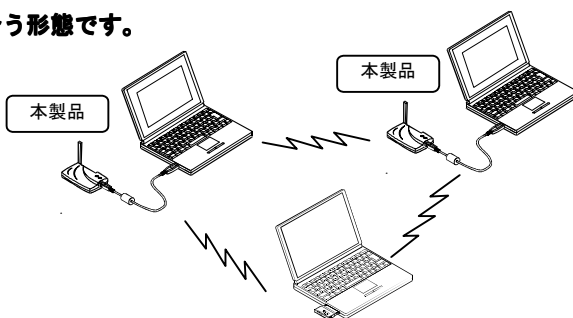
☞ 48ページ

②アドホックの設定をする

無線LANアダプタのみで通信する（アドホックモード）ための設定をします。

☞ 49ページ

アドホックモードとは？

図のようにアクセスポイントを介さずに、パソコン同士で直接通信し合う形態です。

①使用環境を確認する

本製品を使用するには、SS IDを決める必要があります。

1 **本製品を使用する環境を、以下から選び、チェックを付けます。**

□ 新たにネットワークを構築する（１台目の導入）	□ 既存のネットワークで使用する（追加導入）

2

SS ID（ESS ID）を決めます。 任意のSS ID（ESS ID）を決め、下に書き込んでください。 （半角英数字32文字以内で設定します。大文字、小文字の区別もあります。）	**ネットワーク管理者にSS ID（ESS ID）をご確認ください。** 確認したSS ID（ESS ID）を下に書き込んでください。

▼決めた（確認した）SS ID（ESS ID）を記入してください。
※SS ID(ESS ID)は【②アドホックの設定をする】で使用します。

SS ID(ESS ID)	

●SS IDとは？
複数の無線ネットワークが存在する場合に、それらをグループ化するための識別子（ID）です。SS IDが一致していないとそのネットワークには参加できません。アクセスポイントによっては、SS IDがESS IDと記載されている場合もあります。

②アドホックの設定をする

無線LANアダプタのみで通信する（アドホックモード）ための設定をします。

複数の無線 LAN グループがある場合は、それぞれのネットワークで別々の通信チャンネルの値（ユーティリティで設定する［チャンネル］の値）を設定してください。（電波の干渉を防ぐため５チャンネル分間隔を空けることをおすすめします。）
通信チャンネルの値が他の無線LANグループと重なると、他の無線LANグループに通信の内容が流れる、あるいは他の無線LANグループの通信が来てしまいます。そのために起こったトラブルに対しては弊社は一切責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

弊社製WN-B11/PCMとアドホックで通信する場合は、WN-B11/PCMの[モード]を[802.11 Ad hoc]に設定してください。

お使いのパソコンのOSごとに、設定方法が異なります。
以下の必要なページのみご覧ください。

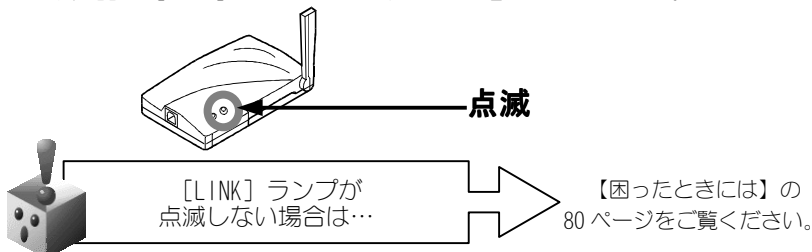
●Windows XPでご使用の場合
⇒【Windows XP】（次ページ）

●Windows XP以外でご使用の場合
⇒【Windows XP以外】（54ページ）

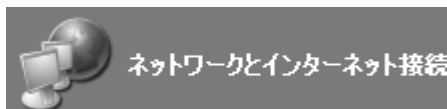
Windows XP

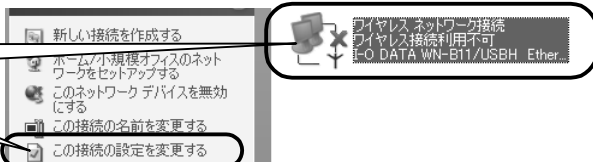
1 本製品を装着したすべてのパソコンの電源を入れます。

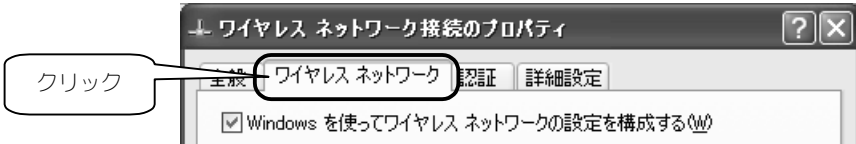
本製品の［LINK］ランプが点滅するかを確認してください。

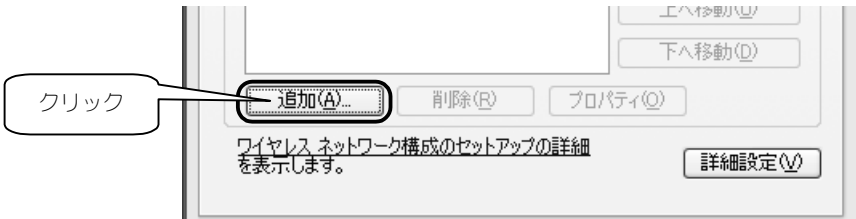
【困ったときには】の
80 ページをご覧ください。

2 ［スタート］→［コントロールパネル］をクリックします。

3 ［ネットワークとインターネット接続］をクリックします。

［クラシック表示］の場合は、［ネットワーク接続］アイコンをダブルクリックして手順5へお進みください。

4 ［ネットワーク接続］をクリックします。

5 インストール済みの［ワイヤレスネットワーク接続］アイコンを選択し、［この接続の設定を変更する］をクリックします。

Windows XP（つづき）

6 **[ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ]が表示されますので[ワイヤレスネットワーク]タブをクリックします。**

7 **●1台目の導入の場合**

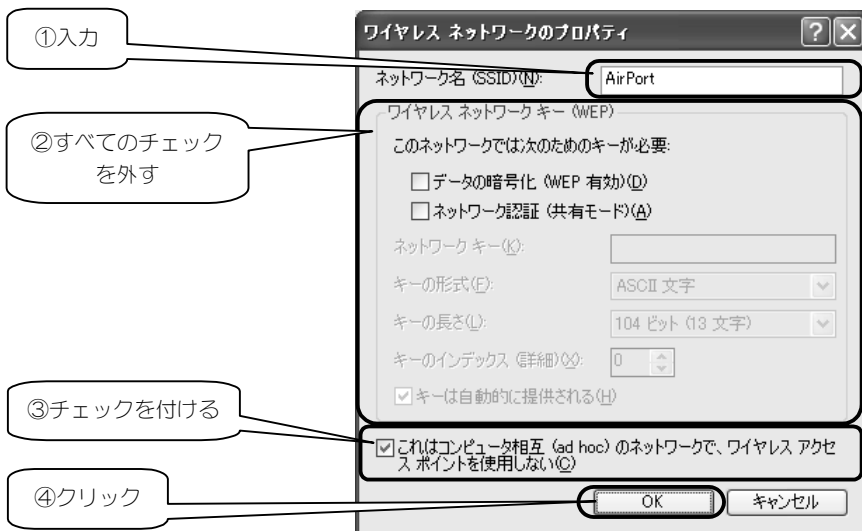
[追加]ボタンをクリックします。

●追加導入の場合

①[利用できるネットワーク]で46ページで確認したSSIDを選択します。
②[構成]ボタンをクリックします。

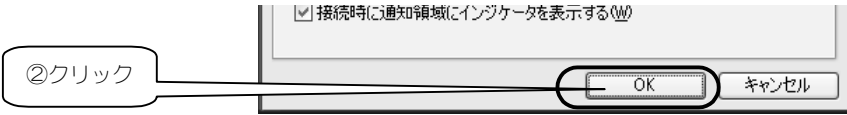
画面は、SSIDが[AirPort]の例です。

Windows XP（つづき）

8 SS IDなどを設定します。

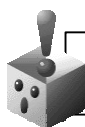
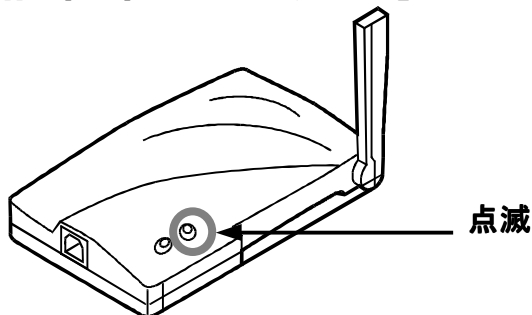
①【①使用環境を確認する】（48ページ）で確認したSS ID(ESS ID)を入力します。
②ワイヤレスネットワークキー（WEP）のチェックをすべて外します。
③「これはコンピュータ相互（Ad hoc）…」にチェックを付けます。
④[OK]ボタンをクリックします。

9 [ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ]画面で、[優先するネットワーク]に追加したSSIDが表示されていることを確認します。

Windows XP（つづき）

10 [OK] ボタンをクリックします。

以上で設定は完了です。２台目以降の設定も同様に行ってください。
ファイルの共有をする場合は、【ファイルを共有する】（103ページ）をご覧ください。

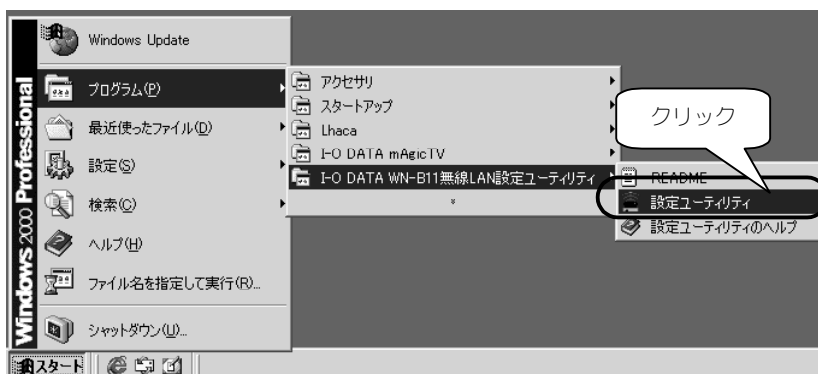
Windows XP以外

1 本製品を装着したすべてのパソコンの電源を入れます。

本製品の［LINK］ランプが点滅するかを確認してください。

［LINK］ランプが点滅しない場合は…

【困ったときには】の80ページをご覧ください。

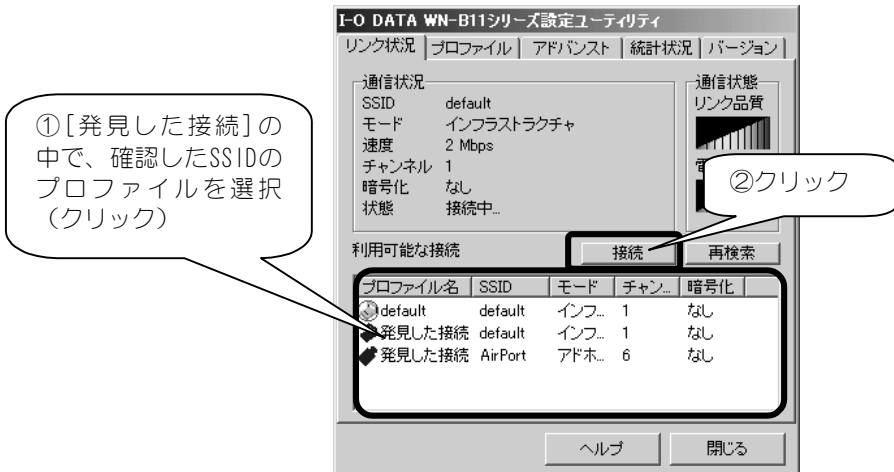
2 設定ユーティリティを起動します。

［スタート］→［プログラム］→［I-O DATA WN-B11無線LAN設定ユーティリティ］→［設定ユーティリティ］を順にクリックします。

Windows XP以外（つづき）

3 **●1台目の導入の場合**

［プロファイル］タブをクリックし、［新規］ボタンをクリックします。

●追加導入の場合

［リンク状況］タブの［利用可能な接続］で、48ページで確認したSSIDのプロファイルを選択し、［接続］ボタンをクリックします。

Windows XP以外（つづき）

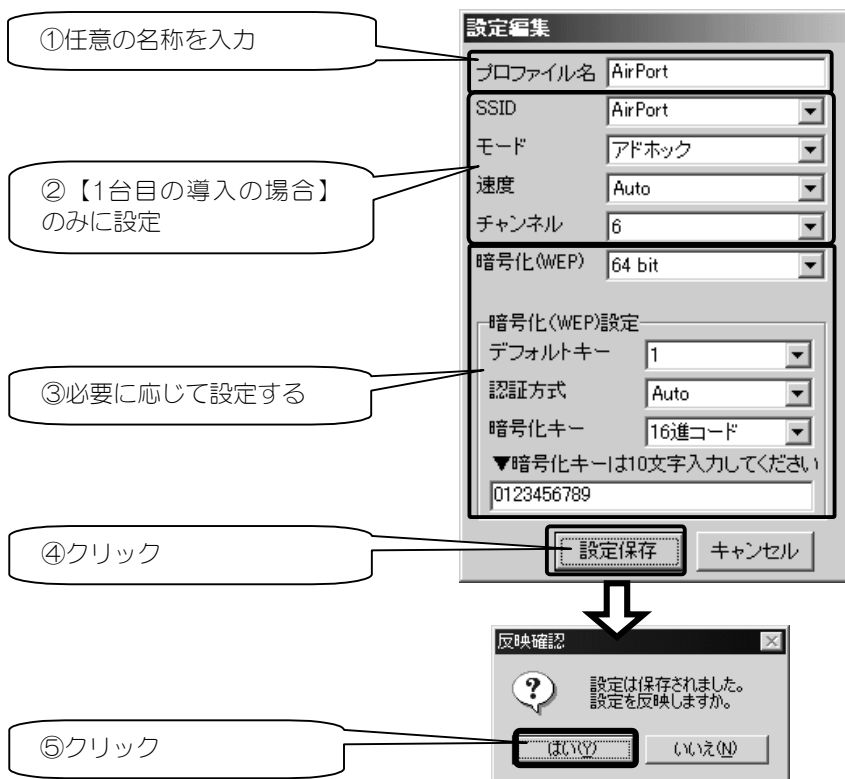
4 設定編集します。

①プロファイル名に任意の名称を設定します。

②**●１台目の導入の場合**、48ページで決めた[SSID]、[モード]、[速度]、[チャンネル]を設定します。詳しくは、【設定ユーティリティを使う】内の（72ページ）をご覧ください。

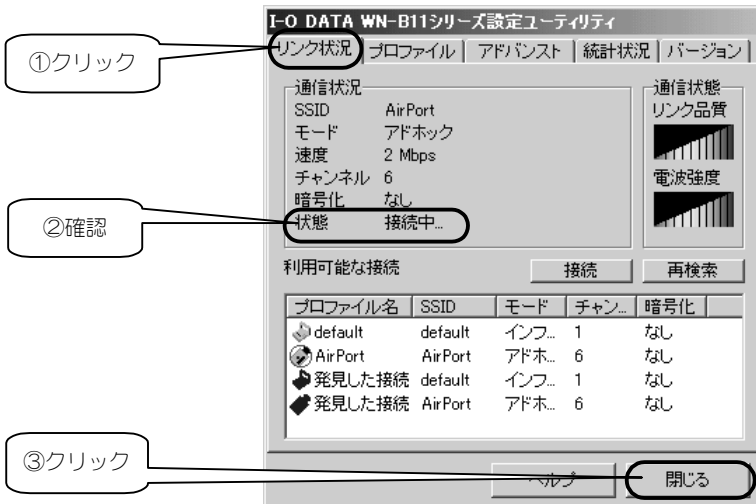
③必要に応じて暗号化設定をします。詳しくは、【通信を暗号化する】内の（64ページ）をご覧ください。

④[設定保存]ボタンをクリックします。

⑤[はい]ボタンをクリックして、設定を保存します。

Windows XP以外（つづき）

5 正常に通信できているかを確認します。

正常に通信できている場合、[リンク状況]の［通信状況］で［状態］が“接続中...”と表示されます。

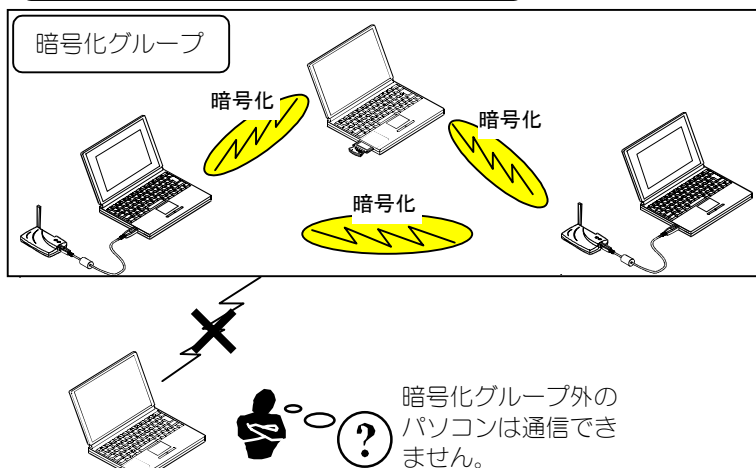
確認後、［閉じる］ボタンをクリックして、画面を閉じてください。

以上で設定は完了です。
ファイルの共有をする場合は、【ファイルを共有する】（103ページ）をご覧ください。

通信を暗号化する

通信時に暗号化していない場合、電波の届く範囲であれば、通信内容を傍受される危険があります。本製品では、無線LANの暗号化の標準であるWEP（Wired Equivalent Privacy）での暗号化を行うことによって、傍受の危険を回避することができます。ここでは、本製品の通信を暗号化する方法を説明します。

通信を暗号化する

通信内容を暗号化します。

60ページ

暗号化を行う場合、暗号化して通信するすべてのパソコンで設定が必要です。アクセスポイントと通信する場合は、アクセスポイントの暗号キーに合わせてください。

通信を暗号化する

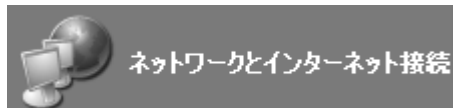
通信を暗号化する方法を説明します。

お使いのパソコンのOSごとに、設定方法が異なります。
以下の必要なページのみご覧ください。

●Windows XPでご使用の場合
⇒【Windows XPで設定する】（下記）

●Windows XP以外のOSでご使用の場合
⇒【Windows XP以外で設定する】（63ページ）

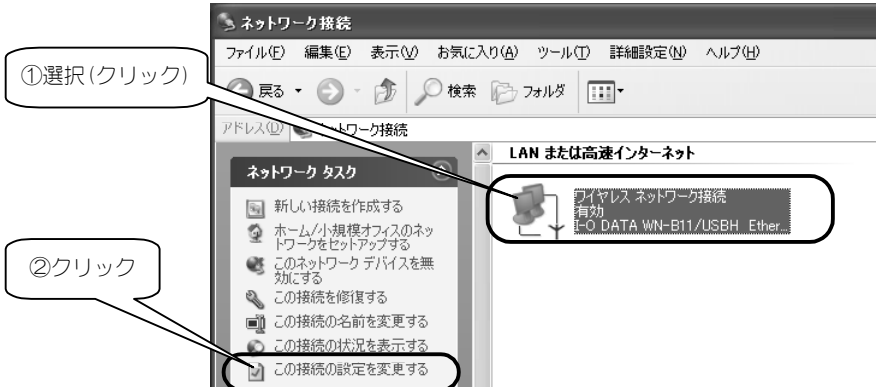
Windows XPで設定する

1 [スタート]→[コントロールパネル]をクリックします。

2 [ネットワークとインターネット接続]をクリックします。

[クラシック表示]の場合は、[ネットワーク接続]アイコンを
ダブルクリックして手順*4*へお進みください。

3 [ネットワーク接続]をクリックします。

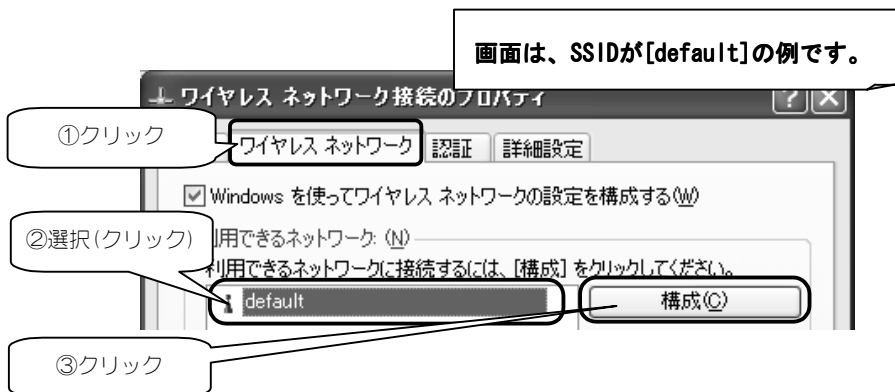
Windows XPで設定する（つづき）

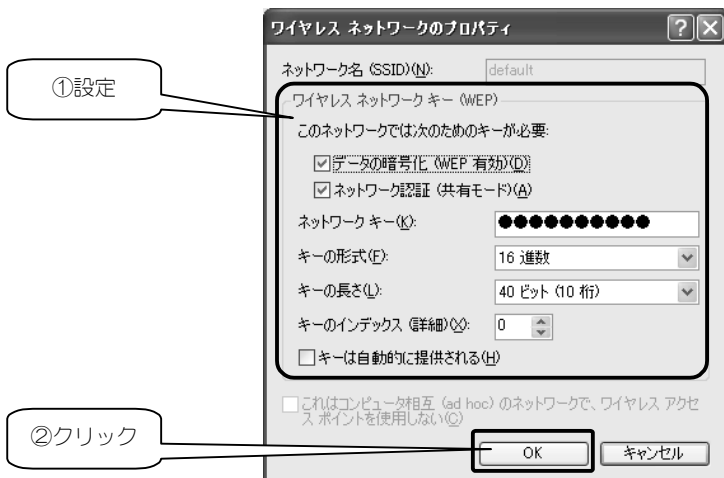
4 **インストール済みの[ワイヤレスネットワーク接続]アイコンを選択し、[この接続の設定を変更する]をクリックします。**

5 **暗号化設定をするネットワークを選択します。**

①[ワイヤレスネットワーク]タブをクリックします。

②暗号化設定をする接続を選択します。

③[構成]ボタンをクリックします。

画面は、SSIDが[default]の例です。

Windows XPで設定する（つづき）

6 暗号化設定をし、[OK]をクリックします。

データの暗号化（WEP有効）	暗号化（WEP）を有効にする場合にクリックします。
ネットワーク認証（共有モード）	共有キー（シェアードキー）を使用する場合にクリックします
ネットワークキー	「キーの形式」に合わせた暗号キーを入力します。
キーの形式	暗号キーの形式を「ASCII文字」「16進数」から選択します。
キーの長さ	暗号キーを入力する長さを ASCII文字の場合 「40ビット（5文字）」「104ビット（13文字）」 16進数の場合 「40ビット（10桁）」「104ビット（26桁）」 から選択します。
キーのインデックス（詳細）	インデックスを0～3の範囲で指定します。 通常は0を指定します。
キーは自動的に提供される	ネットワークキーがアクセスポイント側から、自動で提供される環境の場合はチェックを入れてください。

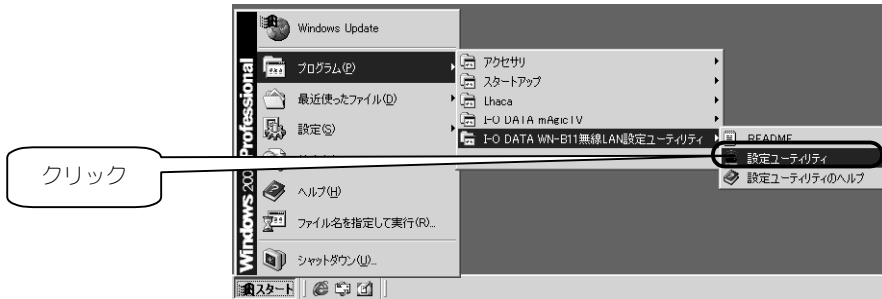
※[キーの長さ]と[キーのインデックス]は他のOS用に提供されている弊社製設定ユーティリティとWindows XPとで標記が異なります。それぞれ以下のように読み替えてください。

40ビット=64ビット、104ビット＝128ビット

キー0=キー1、キー1=キー2、キー2=キー3、キー3=キー4

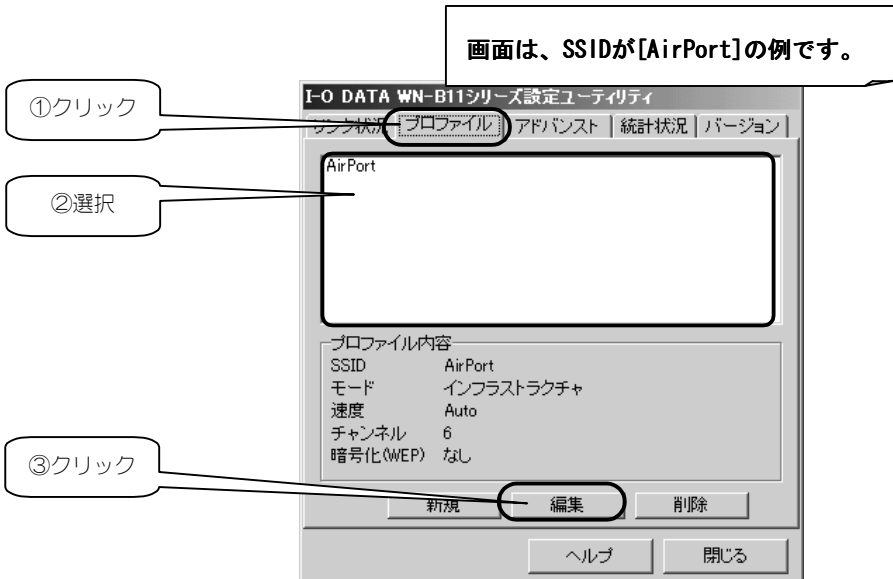
Windows XP以外で設定する

1 設定ユーティリティを起動します。

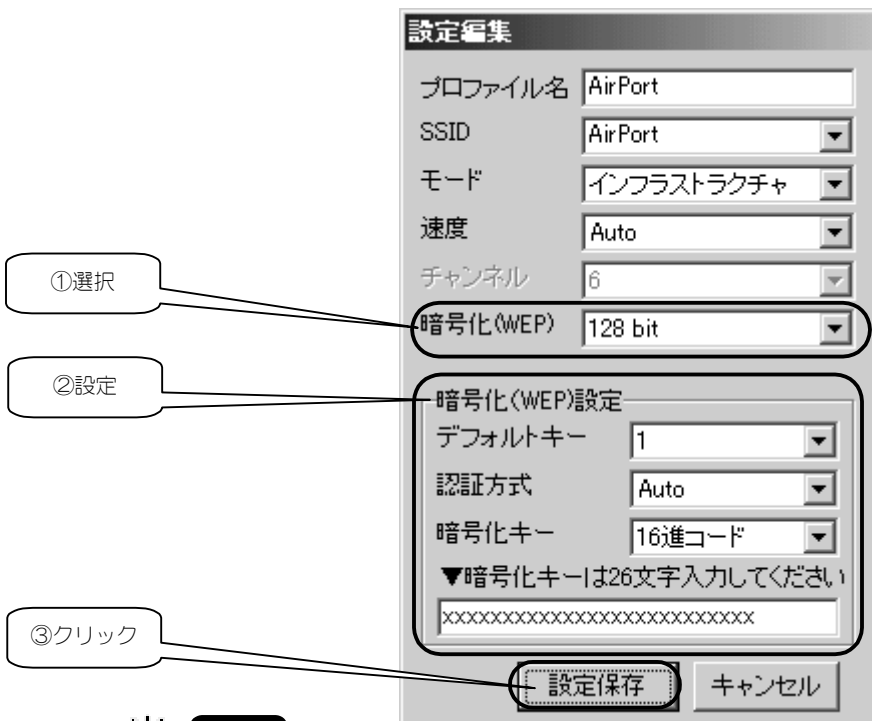
［スタート］→［プログラム］→［I-O DATA WN-B11無線LAN設定ユーティリティ］→［設定ユーティリティ］を順にクリックします。

2 ［設定編集］画面を開きます。

①[プロファイル]タブをクリックします。

②リストから暗号化の設定をするプロファイルを選択します。

③[編集]ボタンをクリックします。

Windows XP以外で設定する(つづき)

3 暗号化の設定をします。

①[暗号化(WEP)]を選択します。
→詳しくは次ページをご覧ください。
②[暗号化(WEP)の設定]をします。
→詳しくは次ページをご覧ください。
③[設定保存]ボタンをクリックします。

注意！

- **暗号化を行う場合、暗号化で通信するすべてのパソコンで設定する必要があります。**
- **アクセスポイントと通信する場合は、アクセスポイントの暗号化キーに合わせてください。**

Windows XP以外で設定する(つづき)

▼①[暗号化（WEP）]

なし	通信時の暗号化は行いません。
64 Bit	64bitの暗号化を行います。
128 Bit	128bitの暗号化を行います。

▼②[暗号化(WEP)の設定]

デフォルトキー	暗号化キーで、使用するキーの番号(1～4)を設定します。通信相手とデフォルトキーが異なる場合、通信は行えません。通信相手（アクセスポイントや他の無線LANアダプタ）と設定をあわせてください。
認証方式	暗号化の認証方式を設定します。 ・Open System：開放型認証方式 ・Shared Key：共有型認証方式 ・Auto：上記の二つを自動判別します。
暗号化キー	入力方法を設定します。(16進コード、ASCIIコード)
入力するキー	暗号化をするためのキーを、0～9またはA～Fの文字列を用いて入力します。設定する値は、本製品と通信する機器と同じ値にする必要があります。 すでに設定済みの機器と通信する場合は、設定済み機器の暗号キーの値を確認し、入力してください。 （他社製品との暗号化については、次ページ参照）

※[キーの長さ]と[キーのインデックス]は他のOS用に提供されている弊社製設定ユーティリティとWindows XPとで標記が異なります。それぞれ以下のように読み替えてください。
40ビット=64ビット、104ビット＝128ビット
キー0=キー1、キー1=キー2、キー2=キー3、キー3=キー4

本製品のWEPキーは、WN-B11/PCMなどで使用していたパスフレーズとは互換性がありません。16進コードまたはASCIIコードのみ互換性があります。パスフレーズをご使用の場合は、[設定ユーティリティのヘルプ]をご覧ください。

暗号化の設定レベル（64bit、128bit）が高いほど強固な暗号化になりますが、無線LAN自体の速度が遅くなる場合があります。

Windows XP以外で設定する(つづき)

暗号キー入力方式の異なる他社製品との暗号化について

本製品を含む WN-B11 シリーズでは、暗号キーとして 16 進コードでの暗号キー入力方式を採用していますが、他社製品には、５文字の英数字・記号で暗号キーを指定する方式や、文字列から 16 進コードへ変換する際、本製品と変換方式の異なる製品があります。
これらの製品と暗号化を行う場合は、最初に英数字・記号の５文字で暗号キーに使用する文字列を決め、16 進コードを入力できない他社製品はこの５文字の文字列を入力します。
WN-B11 シリーズや 16 進コードを入力可能な他社製品にはこの５文字の文字列を下記対応表に基づき、16 進コードに変換したうえで入力することで通信可能となります。
各文字と 16 進コードの対応については下記の表を参照してください。
〈例〉 文字で ″PLANT″ と設定している場合、
16進コードでは [50 4c 41 4e 54] となります。

文字	16進	文字	16進	文字	16進	文字	16進	文字	16進	文字	16進	文字	16進
!	21	／	2f	=	3d	K	4b	Y	59	g	67	u	75
″	22	0	30	＞	3e	L	4c	Z	5a	h	68	v	76
#	23	1	31	?	3f	M	4d	[	5b	I	69	w	77
$	24	2	32	@	40	N	4e	¥	5c	j	6a	x	78
%	25	3	33	A	41	O	4f	]	5d	k	6b	y	79
&	26	4	34	B	42	P	50	^	5e	l	6c	z	7a
’	27	5	35	C	43	Q	51	_	5f	m	6d	{	7b
(	28	6	36	D	44	R	52	`	60	n	6e	|	7c
)	29	7	37	E	45	S	53	a	61	o	6f	}	7d
*	2a	8	38	F	46	T	54	b	62	p	70	~	7e
+	2b	9	39	G	47	U	55	c	63	q	71		
,	2c	:	3a	H	48	V	56	d	64	r	72		
−	2d	;	3b	I	49	W	57	e	65	s	73		
.	2e	＜	3c	J	4a	X	58	f	66	t	74		

設定ユーティリティを使う

設定ユーティリティを使って設定を行う方法を説明します。
設定ユーティリティを使用するのはWindows 2000/Me/98のみです。
Windows XPでは使用しません。

設定ユーティリティを使う

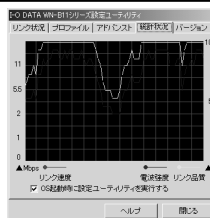
設定ユーティリティの詳細を説明します。

68ページ

設定ユーティリティでできること

通信設定を確認できる

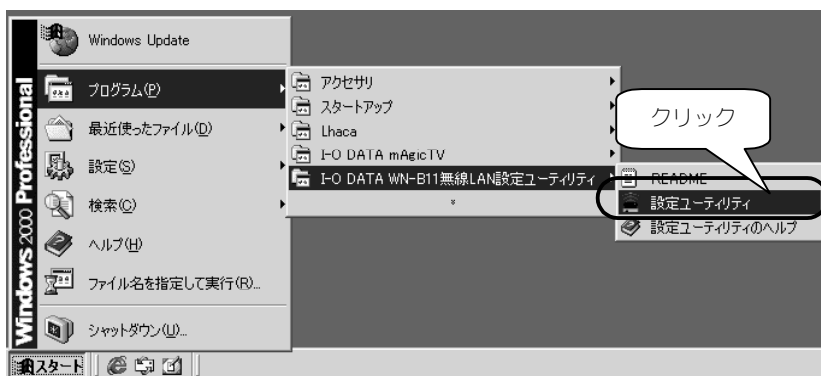
無線LANの設定が簡単

通信の統計が一目でわかる

機能名	内容
リンク状況	利用可能な接続を検索することができます。（69ページ）
プロファイル	暗号化などの無線LANのプロファイルを作成/編集/削除できます。（71ページ）
アドバンスト	設定ユーティリティの標準の設定などについて設定します。（74ページ）
統計状況	通信状況の統計を確認できます。（75ページ）
バージョン	設定ユーティリティのバージョン情報です。（76ページ）

設定ユーティリティを使う

ここでは、ユーティリティの詳細について説明します。

ユーティリティの起動方法

［スタート］→［プログラム］→［I-O DATA WN-B11無線LAN設定ユーティリティ］→［設定ユーティリティ］を順にクリックします。

・【設定ユーティリティの終了方法】
タスクトレイに表示されるアイコンを右クリックして、[終了]をクリックしてください。
・設定ユーティリティについて詳しくは、[設定ユーティリティのヘルプ]をご覧ください。

通信設定の表示 … ［リンク状況］

［リンク状況］タブでは、現在の通信設定を表示したり、接続をしたりします。

項目		内容
通信状況	SSID	現在設定されているSSID
	モード	現在設定されているモード （インフラストラクチャ、アドホック）
	速度	現在のリンク速度 （1Mbps、2Mbps、5.5Mbps、11Mbps）
	チャンネル	現在のチャンネル（1～14ch）
	暗号化	現在設定されている暗号化のレベル （なし、64bit、128bit）
	状態	無線LANアダプタの状態
通信状態	リンク品質	接続されている無線LAN機器とのリンク品質 （表示されているバーが多いほど高品質の通信を行っています。）
	電波強度	接続されている無線LAN機器との電波の強度 （表示されているバーが多いほど強い電波を受信しています。）

通信設定の表示 …［リンク状況］（つづき）

項目		内容
［接続］ボタン		「利用可能な接続」に表示されている項目をクリックし、［接続］ボタンをクリックすると接続作業を行います。 →登録されているプロファイルを選択して、［接続］ボタンをクリックした場合、設定を変更し接続を試みます。 →発見された接続を選択して、［接続］ボタンをクリックした場合、その設定をセットした［設定編集］画面が表示されます。（72ページ参照）
［再検索］ボタン		「利用可能な接続」を再検索します。
利用可能な接続	プロファイル名	登録されているプロファイル名 検索で発見した接続先は「発見した接続」と表示されます。
	SSID	プロファイルで設定されているSSID、または発見された接続のSSID
	モード	プロファイルで設定されているモード、または発見された接続のモード （インフラストラクチャ、アドホック）
	チャンネル	プロファイルで設定されているチャンネル、または発見された接続のチャンネル 登録されているプロファイルで接続可能な場合、実際のチャンネルが表示されます。（1～14ch）
	暗号化	プロファイルで設定されている暗号化、または発見された接続の暗号化（ある、なし）

［利用可能な接続］内のアイコンには、それぞれ意味があります。
詳しくは、［設定ユーティリティのヘルプ］をご覧ください。

無線LANの設定 … ［プロファイル］

［プロファイル］タブでは、無線LANの設定/登録を行うことができます。
登録されたプロファイル名が表示されます。

項目		内容
プロファイル内容	SSID	設定されているSSID
	モード	設定されているモード （インフラストラクチャ、アドホック）
	速度	設定されている速度 （1Mbps、2Mbps、5.5Mbps、11Mbps、Auto）
	チャンネル	設定されているチャンネル（1～14ch）
	暗号化（WEP）	設定されている暗号化レベル （なし、64bit、128bit）
［新規］ボタン		プロファイルを新規登録します。（次ページ参照）
［編集］ボタン		リストで選択したプロファイルを編集します。 （次ページ参照）
［削除］ボタン		リストで選択したプロファイルを削除します。

無線LANの設定 … ［プロファイル］（つづき）

▼[設定編集]画面

設定を保存する

設定を中止する

項目	内容
プロファイル名	プロファイル名を入力します。最大半角100文字(全角50文字)まで入力可能です。
SSID	SSIDを入力します。半角英数字32文字まで、大文字、小文字の判別もします。 利用可能な接続で発見されたSSIDを選択することもできます。
モード	接続形式を選択します。 インフラストラクチャ：アクセスポイントとの通信形態 アドホック：無線LANアダプタ同士の通信形態
速度	リンク速度を設定します。 1Mbps、2Mbps、5.5Mbps、11Mbps、Auto

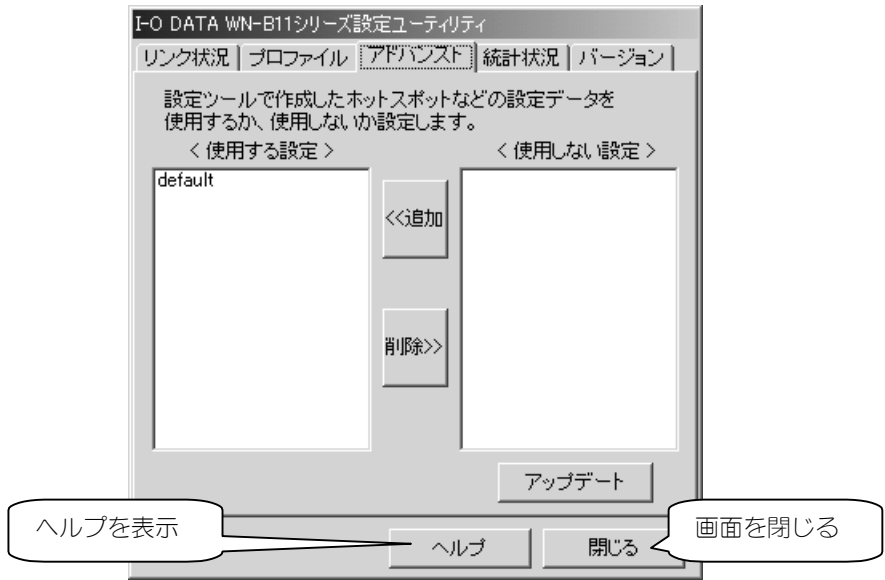
無線LANの設定 …［プロファイル］（つづき）

項目	内容
チャンネル	接続するチャンネルを設定します。 インフラストラクチャモード：アクセスポイントの通信チャンネルが使用されますので設定できません。 アドホックモード：設定されているSSIDの無線ネットワークが存在するときに、存在するチャンネルで動作します。
暗号化（WEP）	暗号化レベルを設定します。レベルが高いほど強固な暗号化になりますが、無線LAN自体のパフォーマンスが悪くなる場合があります。（なし、64bit、128bit）
暗号化（WEP）設定	暗号化の設定を行います。詳しくは、【通信を暗号化する】（64ページ）をご覧ください。

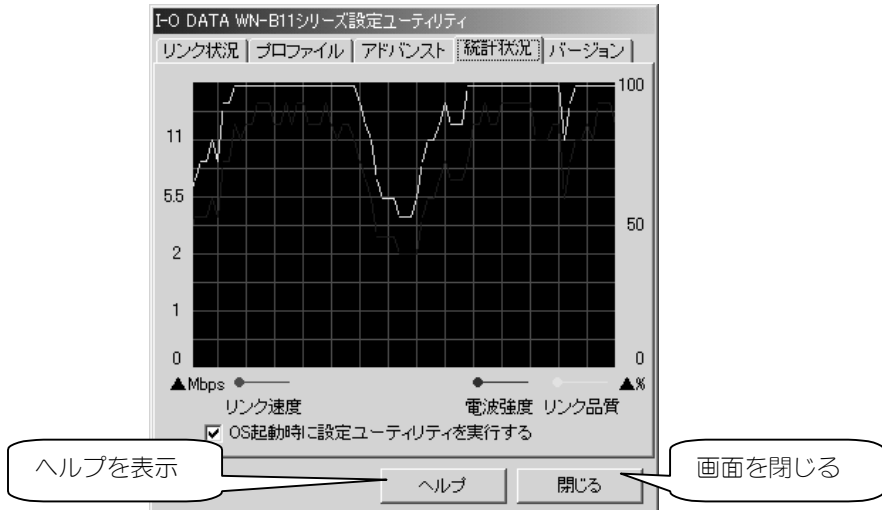
SS IDおよびチャンネルの値が他の無線LANグループと重なると、他の無線LANグループに通信の内容が流れる、あるいは他の無線LANグループの通信が来てしまいます。
そのために起こったトラブルに対しては弊社は一切責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

SS ID とは、本製品とアクセスポイントの通信時に使用する識別用の ID です。アクセスポイント単位に割り当てるため、同一のアクセスポイントに通信する無線ネットワーク製品は、同じ ID にする必要があります。無線 LAN 製品によっては、ESS ID と記載されている場合もあります。

ユーティリティ標準の設定 … [アドバンスト]

[アドバンスト]タブでは、ユーティリティ標準の設定ができます。

項目	内容
使用する設定	標準で登録されている設定の中で使用する設定です。最大5個まで登録可能です。
使用しない設定	標準で登録されている設定の中で使用しない設定です。最大100個まで登録可能です。
[追加]ボタン	[使用しない設定]から使用する設定を追加します。
[削除]ボタン	[使用する設定]から使用しない設定を削除します。
[アップデート]ボタン	標準で登録されているデータのアップデートを行います。

統計状況の表示 … [統計状況]

[統計状況] タブでは、現在までの通信状況の統計が確認できます。
過去2分間の通信状況をグラフ化して表示します。
リンク速度(赤)、電波強度(青)、リンク品質(黄)を表示します。
OS起動時の設定ユーティリティの起動も設定できます。

項目	内容
OS起動時に設定ユーティリティを実行する	チェックすると、次回OS起動時から設定ユーティリティを自動実行し常駐します。デフォルトでONになっています。

本ユーティリティについて … ［バージョン］

［バージョン］タブでは、設定ユーティリティのバージョンなどを確認できます。

その他

困った時には

本製品を使用していて異常があった場合にご覧ください。

弊社ホームページをご覧ください

サポートWebページ内には、過去にサポートセンターに寄せられた事例なども紹介されています。こちらも参考にしてください。

http://www.iodata.jp/support/

製品Q＆A
Newsなど

添付のサポートソフトをバージョンアップすると解決することがあります。下記の弊社サポート・ライブラリから最新のサポートソフトをダウンロードしてお試しください。

http://www.iodata.jp/lib/

最新
サポートソフト

状態	参照ページ
本製品を取り付けてもLINKランプが点灯/点滅しない	80
他社アクセスポイントで、空白やANYというSSIDを設定したアダプタの接続を許可しない設定にした場合、本製品が通信できない	80
［デバイスマネージャ］の確認で、［I-O DATA WN-B11/USBH Ethernet Adapter］が表示されない	80
CD-ROMドライブがない、または、USB接続のCD-ROMドライブを使っているので、インストールできない	81
インストール画面が表示されない	83
［デバイスマネージャ］の確認で、［I-O DATA WN-B11/USBH Ethernet Adapter］の頭に、！マークがついている	84
本製品が正常に動作しない	84
［ネットワーク］画面で、［I-O DATA WN-B11/USBH Ethernet Adapter］が表示されない	85

状態	参照ページ
［マイネットワーク］（ネットワークコンピュータ）に、他の コンピュータ名が表示されない	85
設定ユーティリティがインストールできない	86
「レジューム」「ハイバネーション」「スタンバイ」の後、 動作が不安定になる	87
［利用できるネットワーク］に確認したSSIDが表示されない	88
(Windows Me/98のみ) インストール後の確認で、［ネットワークパスワードの入力］ 画面が表示されない	88
(Windows Me/98のみ) インストール後の確認で、デスクトップに、［マイネットワーク］（ネットワークコンピュータ）アイコンが表示されない	88
(Windows Me/98のみ) ［ネットワーク］画面に、 [TCP/IP－＞xxxxxxxx]は複数表示されているのに、 [TCP/IP－＞I-O DATA WN-B11/USBH Ethernet Adapter] が表示されていない	89
(Windows Me/98のみ) [マイネットワーク]または[ネットワークコンピュータ]アイコンをダブルクリックしてもワークグループ名アイコンや他のパソコンが表示されない。	89

トラブルの状態と対処

本製品を取り付けてもLINKランプが点灯/点滅しない

原因1	本製品を取り付けているUSBポートが不安定である。
対処1	別のUSBポートに取り付けてみてください。
対処2	Windows XP以外の場合は、［設定ユーティリティのインストール］をダブルクリックする前に、一度パソコンを再起動してください。

原因2	パワーマネジメント機能がONになっている。
対処	本製品を取り外してから、パワーマネジメント機能をOFFにします。再度、本製品を取り付けてください。

他社アクセスポイントで、空白やANYというSSIDを設定したアダプタの接続を許可しない設定にした場合、本製品が通信できない

原因	本製品は製品仕様上この設定では接続できない。
対処	アクセスポイント側で、「空白やANYのSSIDを持ったアダプタの接続を許可する設定」にしてご利用ください。

［デバイスマネージャ］の確認で、［I-O DATA WN-B11/USBH Ethernet Adapter］が表示されない

原因1	本製品を取り付けていない、または、正しく取り付けていない。
対処	本製品を接続していない状態では表示されません。本製品が正しく接続されていることを確認してください。また、USBケーブルをいったん取り外して、再度接続してみてください。

原因2	間違ったドライバがインストールされている。またはインストールを中断してしまったため、正常にインストールされていない。
対処	【本製品が正常に動作しない】（84ページ）をご覧ください。

CD-ROMドライブがない、または、USB接続のCD-ROMドライブを使っているので、インストールできない

対処	下記の手順にしたがってください。

USB接続でCD-ROMドライブをお使いの場合

パソコンにUSBポートが1つのみで、かつUSB接続のCD-ROMドライブをお使いの場合、インストール時にCD-ROMドライブが使えません。
以下の方法で「サポートソフト」の内容をハードディスクにコピーしておいてください。

1 パソコンにCD-ROMドライブを接続し、パソコンの電源を入れます。

2 ①エクスプローラを起動します。

・Windows XPの場合

[スタート]→[すべてのプログラム]→［アクセサリ］→[エクスプローラ]を順にクリックします。

・Windows 2000の場合

[スタート]→[プログラム]→[アクセサリ]→[エクスプローラ]を順にクリックします。

・Windows Me/98の場合

[スタート]→[プログラム]→[エクスプローラ]を順にクリックします。

②[すべてのファイルを表示する]に設定します。

1. ［ツール］メニューの［フォルダ オプション］を選びます。
2. ［表示］タブに移動し、［すべてのファイルとフォルダを表示する］をチェックします。（Windows XPの場合は、［表示］タブの［詳細設定］欄にあります。）
3. ［OK］ボタンをクリックします。

[ツール]メニューの[フォルダ オプション]が無い場合、以下の手順で設定します。

①[表示]メニューの[フォルダ オプション]を選びます。

②[表示]タブの[すべてのファイルを表示する]をチェックします。

③[OK]ボタンをクリックします。

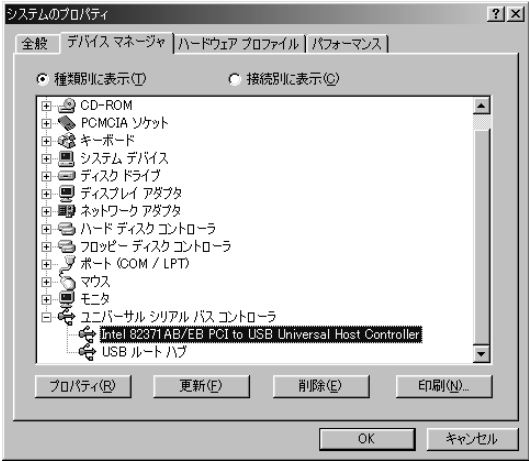
3 **CD-ROMドライブに「サポートソフト」ディスクをセットします。**

4 **ハードディスクドライブ（Windowsなどがインストールされているドライブ）に、任意のフォルダ（ディレクトリ）を作成します。**

5 **「サポートソフト」ディスクの内容をすべて手順4 で作成したフォルダ（ディレクトリ）にコピーします。**

インストールの手順内では、手順4で作成したフォルダを指定してください。

CD-ROMドライブがない場合

パソコンにCD-ROMドライブが無い場合は、以下を行ってください。

1 **インターネット上の弊社ホームページ（http://www.iodata.jp/lib/）より、本製品添付のサポートソフトのファイルを入手します。**

2 **ハードディスクドライブ（Windowsがインストールされているドライブ）に、任意のフォルダを作成し、入手したファイルをそのフォルダで展開してください。**

インストールの手順内では、ここで作成したフォルダを指定してください。

インストール画面が表示されない

原因1	本製品が正しく接続されていない。
対処	再度接続しなおしてください。

原因2	Windows Me/98で、USB（ユニバーサルシリアルバス）コントローラが使用不可になっている。
対処	以下の手順で「使用可」にします。 ①[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]→[システム]を順に開きます。 ②[デバイスマネージャ]タブで、[ユニバーサルシリアルバスコントローラ]の下にある[USB ホストコントローラ]（**名称は機種により異なります**）を選択し、[プロパティ]ボタンをクリックします。 ③[デバイスの使用]欄の[このハードウェアプロファイルで使用不可にする]のチェックを外します。 ▼Windows Me の画面例 チェックが付いている場合はクリックして外してください

原因3	バスパワーモードのUSBハブに接続している
対処	本製品をパソコン本体のUSBポートに接続するか、セルフパワーモードのハブに接続しなおしてみてください。

［デバイスマネージャ］の確認で、［I-O DATA WN-B11/USBH Ethernet Adapter］の頭に、！マークがついている

原因	USBコントローラが正常に動作していない。
対処	［ユニバーサルシリアルバスコントローラ］の下のUSBコントローラ（以下の画面例では、［Intel 82371AB/EB PCI to USB Universal Host Controller］）の頭に！マークがないか確認してください。 ある場合は、パソコンメーカーにご確認ください。 ▼Windows Me の画面例

本製品が正常に動作しない

原因1	間違ったドライバがインストールされている。またはインストールを中断してしまったため、正常にインストールされていない。
対処	［デバイスマネージャ］の［その他のデバイス］の下に ［I-O DATA WN-B11/USBH］があるかをご確認ください。 ある場合は、［I-O DATA WN-B11/USBH］をクリックし、［プロパティ］ボタンをクリック後、［ドライバの再インストール］ボタンで再度インストールを行ってください。

原因2	正しく接続されていない
対処	USBケーブルと本製品やパソコンの接続を再度確認してください。

原因3	バスパワーモードのUSBハブに接続している
対処	本製品をパソコン本体のUSBポートに接続するか、セルフパワーモードのハブに接続しなおしてみてください。

［ネットワーク］画面で、［I-O DATA WN-B11/USBH Ethernet Adapter］が表示されない

対処	上記の**【本製品が正常に動作しない】**をご覧ください。

[マイネットワーク]（ネットワークコンピュータ）に、他のコンピュータ名が表示されない

原因1	本製品を正しく取り付けていない。
対処	接続を確認してください。正しく通信できていれば、本製品のLINKランプが緑色に点灯します。

原因2	《アクセスポイントを使用していない場合》 通信先と同じSS IDを設定していない。
対処	通信先と同じSS IDにする必要があります。SS IDを同じ値にしてください。

原因3	《アクセスポイントを使用していない場合》 通信先のパソコンの通信チャンネルの値を同一にしていない。
対処	アクセスポイントが無い場合は、通信先と同じ通信チャンネルにする必要があります。【設定ユーティリティを使う】(67ページ)を参照して、通信チャンネルを同じ値にしてください。

原因4	《アクセスポイントを使用していない場合》 通信先のパソコンと同じワークグループ名が指定されていない。
対処	【ファイルを共有する】(103ページ)の各OSの項を参照して、ネットワーク上のすべてのパソコンに対し、同じワークグループ名を指定してください。

原因5	《アクセスポイントを使用している場合》 アクセスポイントと同じSS IDを設定していない。
対処	アクセスポイントと通信する場合は、アクセスポイントと同じSS IDにする必要があります。SS IDを同じ値にしてください。

原因6	IPアドレスの設定が間違っている。
対処	正しい設定にしてください。（【ファイルを共有する】103ページ参照）

原因7	無線状態が悪く、電波が届かない。
対処	無線間の距離を短くしたり、障害物を取り除いたり、通信チャンネルを変更してから、再度試してみてください。

設定ユーティリティがインストールできない（以下のようなエラーとなる）

エラーメッセージ

「InstallShieldエンジン(iKernel.exe)をインストールできませんでした。
システムは、指定されたデバイスからは読み取れません。」

原因	パソコンに常駐しているアプリケーションが、InstallShieldの動作の妨げになっている。
対処	設定ユーティリティをインストールする場合のみ、常駐しているアプリケーションを常駐解除してください。 アプリケーションの常駐解除方法は、各アプリケーションの取扱説明書などをご覧ください。（「設定ユーティリティ」のインストール時のみのもので、インストール後は、常駐してもかまいません。）

「レジューム」「ハイバネーション」「スタンバイ」の後、動作が不安定になる

対処	「レジューム」「ハイバネーション」「スタンバイ」を行わないように設定してください。

「レジューム」「ハイバネーション」はメーカー独自のユーティリティやパソコン本体のBIOS で設定している場合があります。
設定を変更するにはパソコン本体の取扱説明書をご覧になるか、パソコンメーカーにお問い合わせください。

参考

「レジューム」とは…

→レジューム機能とは、しばらく何も操作しないでいたり、電源を入れたままノートパソコンのふたを閉めると自動的に働く省電力機能です。

レジューム機能の停止方法（Windows Me/98 の例）

①[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]の[電源の管理]アイコンをダブルクリックします。
②[システムスタンバイ]欄の[電源に接続][バッテリを使用中]を共に「なし」に設定してください。

「ハイバネーション」とは…

→ハイバネーション機能とは、ノートパソコンでバッテリーが残り少なくなると自動的に電源を切る直前の状態をハードディスクに保存しておき、電源を入れた時に元の状態に戻す機能です。
ハイバネーション機能が無効になるよう設定してください。

本製品を使用中は、スタンバイ機能に対応しているパソコンでは“[スタート]→[Windowsの終了]”での[スタンバイ]は選択しないでください。

［利用できるネットワーク］に確認したSSIDが表示されない

原因	お使いのアクセスポイントがSSIDを通知しないタイプのものである。
対処	●Windows XPの場合 ①[優先するネットワーク]内の、[追加]ボタンをクリックします。 ②[ネットワーク名（SSID）]に、お使いのアクセスポイントのSSIDを入力して、[OK]ボタンをクリックしてください。 ●Windows XP以外の場合 ①[プロファイル]タブから[新規]ボタンをクリックします。 ②[設定編集]画面の［SSID］にお使いのアクセスポイントのSSIDを入力してください。

（Windows Me/98のみ）
インストール後の確認で、［ネットワークパスワードの入力］画面が表示されない

原因	ドライバが正常にインストールされていない。
対処	【Windows Me/98の確認】の【確認③】(95ページ)で、インストールが正常かを確認してください。

（Windows Me/98のみ）
インストール後の確認で、デスクトップに、[マイネットワーク]（ネットワークコンピュータ）アイコンが表示されない

原因	ネットワークの設定で［Microsoftネットワーククライアント］が登録されていない。
対処	［スタート］→［設定］→［コントロールパネル］→［ネットワーク］を開き、［Microsoftネットワーククライアント］が登録されているか確認してください。 無い場合は、［追加］ボタンで追加してください。 また、［優先的にログインする］を［Microsoftネットワーククライアント］になっているかも確認してください。

（Windows Me/98のみ）
［ネットワーク］画面に、［TCP/IP－＞xxxxxxxx]は複数表示されているのに、［TCP/IP－＞I-O DATA WN-B11/USBH Ethernet Adapter]が表示されていない

原因

登録されているLANアダプタの数が多い。
（登録できるLANアダプタの数には、制限があります。）

対処

［ネットワーク］画面で、必要の無い、あるいは使用していないLANアダプタをクリックして、［削除］ボタンで削除してください。

●必要の無いLANアダプタの例

- 以前使用していたが、現在使用していないLANアダプタ
- 赤外線通信を行わない場合の「赤外線通信アダプタ」
  ※赤外線通信アダプタの名称は、パソコン本体により異なります。また、パソコン本体のBIOSの設定が必要となる場合がありますので、詳細はパソコンメーカーにお問い合わせください。
- インターネット・プロバイダに「AOL」を使用していない場合の「AOL Adapter」および「AOL Dialup Adapter」

（Windows Me/98のみ）
[マイネットワーク]または[ネットワークコンピュータ]アイコンをダブルクリックしてもワークグループ名アイコンや他のパソコンが表示されない。

原因	Windowsのネットワーク機能が正常に動作していない。
対処	次ページの【ネットワーク機能を確認する】を参照してください。

･ネットワーク機能を確認する

正常に組み込まれなかったネットワークを削除してください。

1 [マイコンピュータ]→[コントロールパネル]→[ネットワーク]を開きます。

2 [ネットワーク]画面に表示される内容を下記の順に削除します。

削除する順番が異なると、ネットワークがうまく構成し直せなくなる場合がありますので、必ず下記の順で削除してください。

＜削除する順番＞

1) サービスをすべて削除します。

[Microsoft ネットワーク共有サービス]など[xxxx 共有サービス]という名称のものが該当します。

サービスの削除後は、[ネットワーク]画面で[OK]ボタンをクリックし、画面を閉じます。その後に、Windowsの再起動を要求されますので、再起動してください。

2) クライアントをすべて削除します。

[Microsoft ネットワーククライアント]、[Microsoft ファミリログオン]など[xxxxクライアント]という名称のものが該当します。

[コントロールパネル]→[ネットワーク]を開いて、クライアントをすべて削除します。サービスの削除後は、[ネットワーク]画面で[OK]ボタンをクリックし、画面を閉じます。その後に、Windowsの再起動を要求されますので、再起動してください。

3) プロトコルをすべて削除します。

[TCP/IP(TCP/IP->xxxx)]、[NetBEUI(NetBEUI->xxxx)]、[IPX/SPX(IPX/SPX->xxxx)という名称のものが該当します。

プロトコルの削除後は、[ネットワーク]画面で[OK]ボタンをクリックし、画面を閉じます。その後に、Windowsの再起動を要求されますので、再起動してください。

3 [コントロールパネル]→[ネットワーク]を開くと、アダプタ関連が残ります。その状態になりましたら、お客様が接続するネットワーク環境に必要なものを以下の順に追加します。

＜追加する順番＞

1) クライアントとプロトコルを追加します。

※クライアントを追加しますと、プロトコルも一緒に追加されます。

追加する方法は、以下の通りです。

① [追加]ボタンをクリックします。
② [クライアント]をクリック後、[追加]ボタンをクリックします。
③ [製造元]で[Microsoft]を選択し、[クライアント]で必要なプロトコルの名称([Microsoft ネットワーククライアント]など)をクリックし選択します。
④ [OK]ボタンをクリックします。
⑤ クライアントとプロトコルが追加されたことを確認します。

2) サービスを追加します。

追加する方法は、以下の通りです。

① [追加]ボタンをクリックします。
② [サービス]をクリック後、[追加]ボタンをクリックします。
③ [製造元]で[Microsoft]を選択し、[サービス]で必要なサービスの名称([Microsoft ネットワーク共有サービス]など)をクリックし選択します。
④ [OK]ボタンをクリックします。
⑤ サービスが追加されたことを確認します。

4 [優先的にログオンする]は、上記にて追加し直したクライアントを選択してください。

5 以上の設定を行って再起動した際、ネットワークへのログオン画面が表示されると思います。ここでは、キャンセルせずに必ず[OK]ボタンをクリックしてください。(パスワードは未入力でも可)

以上で設定は終了です。

インストール状態を確認する

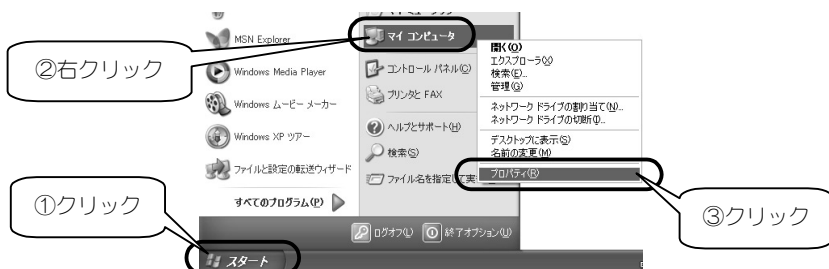
ここでは本製品が、正常に使用できることを確認する方法を説明します。

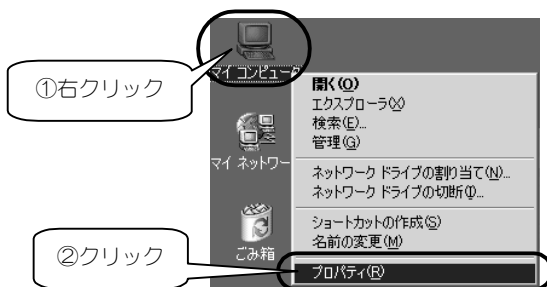
・Windows XP/2000の場合　⇒　以下の【Windows XP/2000での確認】参照
・Windows Me/98の場合　⇒　94ページ【Windows Me/98での確認】参照

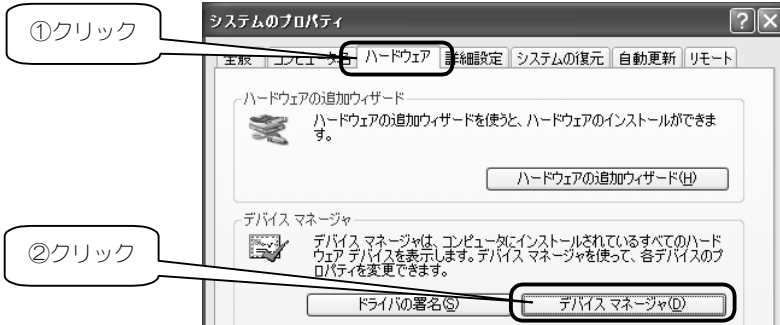
Windows XP/2000での確認

確認:[デバイスマネージャ]に本製品が正常に登録されていることを確認する

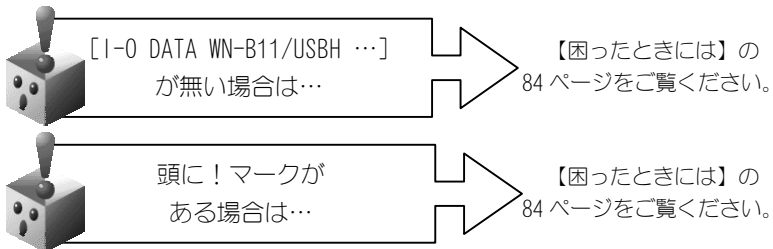
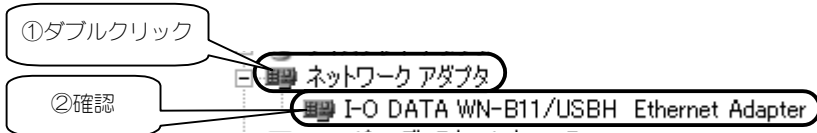
1 **Windows XPの場合**

[スタート]をクリックし、[マイコンピュータ]を右クリックして、[プロパティ]をクリックします。

Windows 2000の場合

[マイコンピュータ]を右クリックし[プロパティ]をクリックします。

Windows XP/2000での確認（つづき）

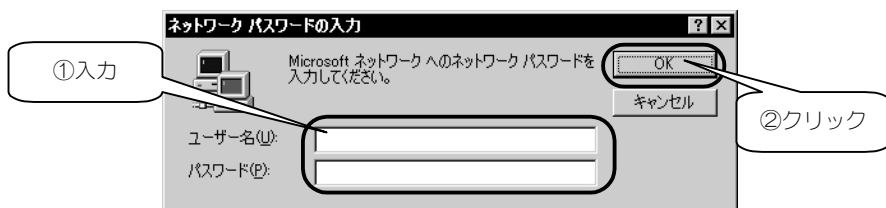
2 **[ハードウェア]タブをクリックして、[デバイスマネージャ]ボタンをクリックします。**

3 **［ネットワークアダプタ］をダブルクリックします。**

・［ネットワークアダプタ］の下に
［I-O DATA WN-B11/USBH Ethernet Adapter］と表示されていることを確認します。

・その頭に！マークが表示されていないことも確認します。

正常に表示されていれば、本製品が使用できます。

Windows Me/98での確認

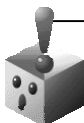
確認①：Windows起動途中で、［ネットワークパスワードの入力］画面が表示されるか確認しましょう

《ネットワークパスワードの入力》画面

インストール後、パソコンを再起動すると起動途中で上記の画面が表示されますので、ユーザー名とパスワードを入力して[OK]ボタンをクリックしてください。
［キャンセル］ボタンをクリックすると、ネットワークにログインできません。

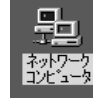
参考

[ユーザー名]と[パスワード]について‥‥

・ネットワーク上にサーバーがある場合
サーバーの管理者にご確認ください。間違った場合は、ネットワークにログインできません。

・ネットワーク上にサーバーがない場合
[ユーザー名]には、ネットワーク上で固有な名称（他のパソコンと重複しない名称）を入力してください。（入力した値は、忘れないようにしてください。）
[パスワード]は特に入力する必要はありません。

Windows Me/98での確認（つづき）

**確認②：デスクトップ上に[マイネットワーク]（Windows Meの場合）
または[ネットワークコンピュータ]（Windows 98の場合）
のアイコンが表示されるか確認しましょう**

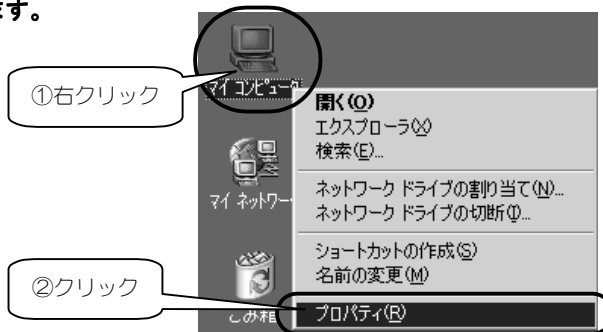
[マイネットワーク]
アイコン
（Windows Me）

[ネットワークコンピュータ]
アイコン
（Windows 98）

アイコンが
表示されない場合は…

【困ったときには】の
88 ページをご覧ください。

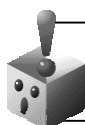
確認③：[デバイスマネージャ]に本製品が正常に登録されているか確認しましょう

設定ユーティリティが正常にインストールされたかを確認するために、以下の手順で、［デバイスマネージャ］に本製品が登録されているかを確認します。

1 ［マイコンピュータ］を右クリックし、［プロパティ］をクリックします。

Windows Me/98での確認（つづき）

2 **［デバイスマネージャ］タブをクリックし、［種類別に表示］で［ネットワークアダプタ］をダブルクリックします。**

・［ネットワークアダプタ］の下に［I-O DATA WN-B11/USBH Ethernet Adapter］と表示されていることを確認します。

・その頭に！マークが表示されていないことも確認します。

参考

PC98-NXシリーズで[デバイスマネージャ]が表示されない場合は、以下の手順で[アドバンスドモード]に設定してください。

①[スタート]→[プログラム]→[Cyber Trio-NX]（あるいは[NXユーティリティ]、[NXの設定]）→[Cyber-Trio-NXセットアップ]を順に起動します。

②[アドバンスドモード]をチェックし、[OK]ボタンをクリックします。

③Windowsを再起動します。

正常に表示されていれば、本製品が使用できます。

本製品を取り外す

本製品は、パソコンの電源を切った後に取り外すことができますが、Windows使用中に取り外すこともできます。

・本製品を取り外す場合は、本製品を使用していない、また、他のパソコンからアクセスされていないことを確認してから取り外してください。
・以下の手順を行うと、実際に本製品を抜かなくても動作は終了したとみなされ、本製品は使用できなくなります。
再度使用したい場合は、いったん本製品を抜いて、再び接続してください。

Windows XPの場合

1 画面右下のタスクトレイの アイコンをクリックし、[I-O DATA WN-B11/USBH…] をクリックします。

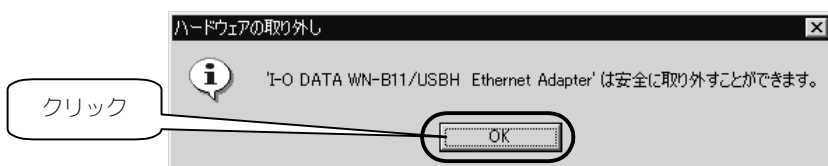
2 以下の画面を確認します。

3 本製品を取り外します。

再度、使いたい場合はそのまま挿入してください。

Windows 2000の場合

1 **画面右下のタスクトレイの アイコンをクリックし、［I-O DATA WN-B11/USBH…］をクリックします。**

2 **［OK］ボタンをクリックします。**

3 **本製品を取り外します。**

> **再度、使いたい場合はそのまま挿入してください。**

Windows Me/98の場合

ネットワークにアクセスしていないことを確認して、本製品を取り外します。

> **再度、使いたい場合はそのまま挿入してください。**

本製品を削除する(アンインストール)

インストールしたユーティリティソフトやドライバソフトを削除します。

設定ユーティリティを削除する（Windows XP以外）

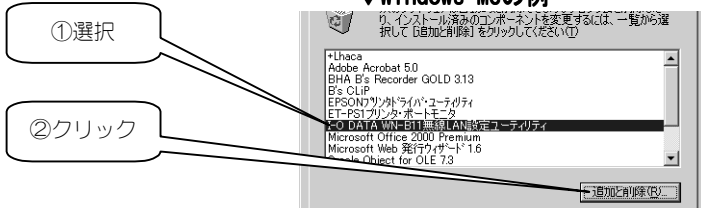
Windows XPをお使いの場合は、読み飛ばして次ページへお進みください。

設定ユーティリティを削除する前に、必ず設定ユーティリティを終了しておいてください。終了方法は、【設定ユーティリティの起動方法】(68 ページ)の【参考】をご覧ください。

1 **[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]の[アプリケーションの追加と削除]を開きます。**

2 **[I-O DATA WN-B11無線LAN設定ユーティリティ]を削除します。**

①[I-O DATA WN-B11無線LAN設定ユーティリティ]を選択します。

②[変更/削除]（または[追加と削除]）ボタンをクリックします。

後は画面の指示にしたがってください。

これで設定ユーティリティの削除は完了です。次ページへお進みください。

ドライバを削除する

インストールした「ドライバソフト」と「INFファイル」を削除します。
（画面はWindows XPを例にしています。）

本製品は取り付けたままにしておいてください。

1 [デバイスマネージャ]を起動します。

Windows XPの場合

①[スタート]から[マイコンピュータ]を右クリックし、[プロパティ]をクリックします。

②[ハードウェア]タブをクリックし、[デバイスマネージャ]ボタンをクリックします。

Windows 2000の場合

①[マイコンピュータ]アイコンを右クリックし、[プロパティ]をクリックします。

②[ハードウェア]タブをクリックし、[デバイスマネージャ]ボタンをクリックします。

Windows Me/98の場合

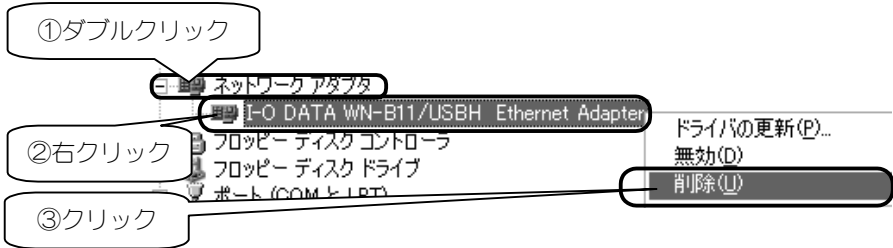
①[マイコンピュータ]アイコンを右クリックし、[プロパティ]をクリックします。

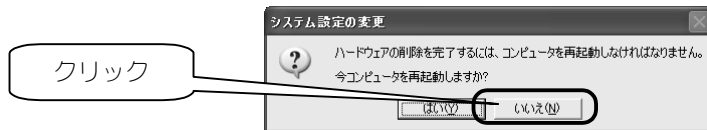
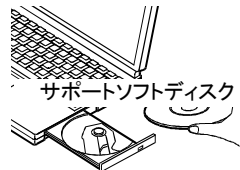
②[デバイスマネージャ]タブをクリックします。

3 [I-O DATA WN-B11/USBH Ethernet Adapter] を削除します。

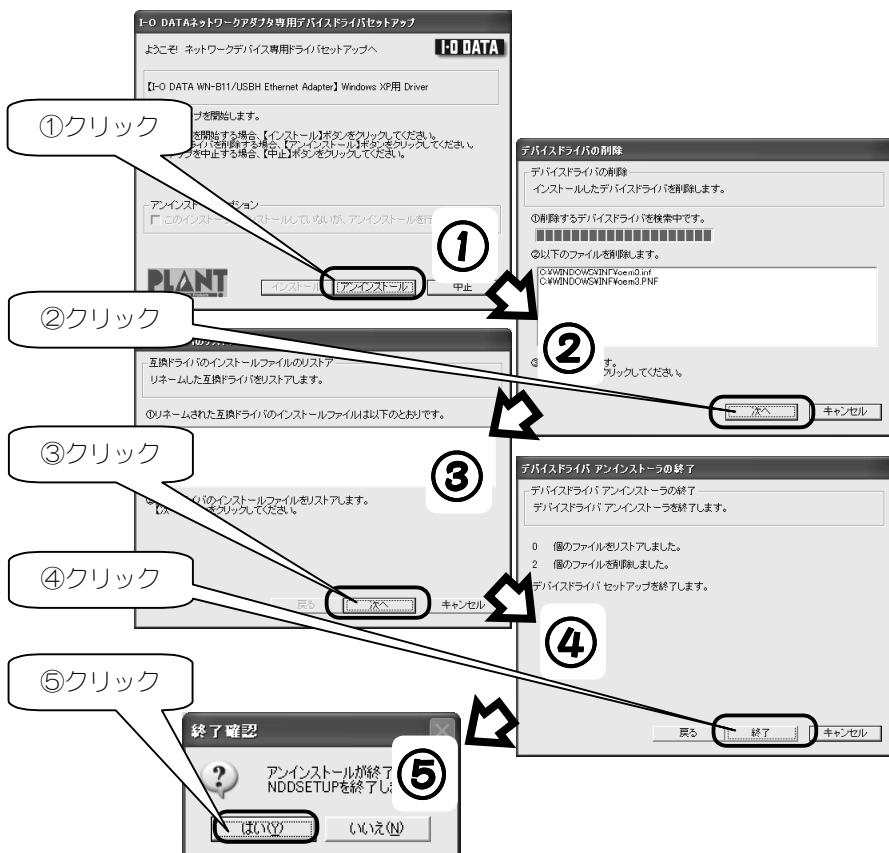
①［ネットワークアダプタ］をダブルクリックします。

②［I-O DATA WN-B11/USBH Ethernet Adapter］を右クリックします。

③表示された［削除］をクリックします。

4 [OK] ボタンをクリックします。

5 再起動の画面が表示される場合は、[いいえ] ボタンをクリックします。

6 サポートソフトディスクをCD-ROMドライブにセットします。

7 **[マイコンピュータ]から、CD-ROMの[NDDSETUP]アイコンをダブルクリックします。**

8 **「INFファイル」を削除します。**

画面の指示にしたがってください。

これでドライバの削除は完了です。

ファイルを共有する

ここでは、LAN内でファイルを共有するときの設定例を説明します。

IPアドレスを確認する

ネットワーク上のすべてのパソコンには別々のIPアドレスが必要です。
ここでは、お使いのパソコンに設定するIPアドレスを確認します。

ネットワーク管理者にIPアドレスをご確認ください。
確認したIPアドレスを下に書き込んでください。
（詳しくは、【IPアドレス設定例】（119ページ）、【IPアドレスのクラス】（120ページ）をご覧ください。）

▼確認した(決めた)IPアドレスを記入してください。

IP アドレス	.　　　.　　　.

お使いのパソコンのOSごとに、このあとの設定方法が異なります。以下の必要なページのみご覧ください。

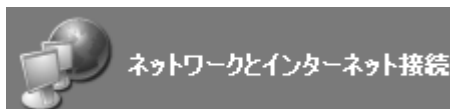
●Windows XPでご使用の場合
⇒【Windows XP】（次ページ）

●Windows 2000でご使用の場合
⇒【Windows 2000】（108ページ）

●Windows Me/98でご使用の場合
⇒【Windows Me/98】（113ページ）

・本書では、設定するプロトコルとして[TCP/IP]についてのみ説明しています。他のプロトコルについては、ネットワーク管理者にご確認ください。
・弊社では、本製品が正しく動作し、ファイルやプリンタの共有が確認できるまでをサポート範囲としております。

Windows XP

1 [スタート]→[コントロールパネル]をクリックします。

2 [ネットワークとインターネット接続]をクリックします。

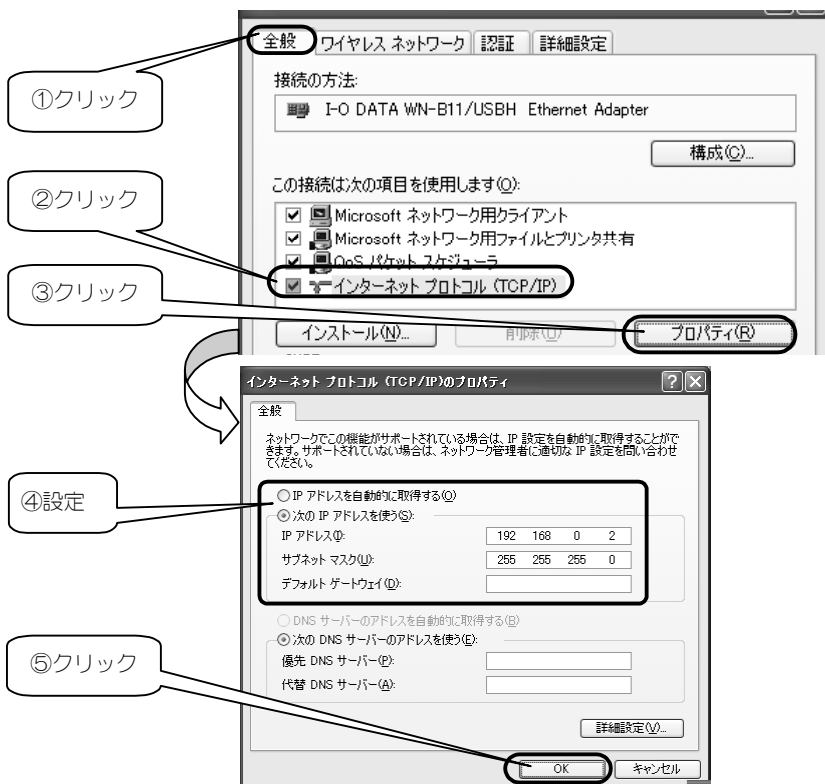
[クラシック表示]の場合は、[ネットワーク接続]アイコンをダブルクリックして手順4へお進みください。

3 [ネットワーク接続]をクリックします。

4 [ネットワーク接続]では、インストール済みの[ワイヤレスネットワーク接続]アイコンが表示されますのでアイコンを選択後、[この接続の設定を変更する]をクリックします。

Windows XP（つづき）

5 IPアドレスの設定を行います。

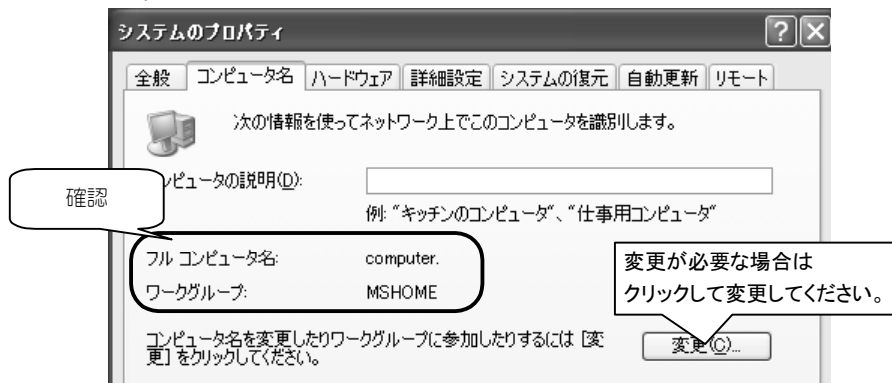
①［全般］タブをクリックします。
②［インターネットプロトコル（TCP/IP）］をクリックします。
③［プロパティ］ボタンをクリックします。
④【IPアドレスを確認する】（103ページ）で確認したIPアドレスを入力します。
⑤［OK］ボタンをクリックします。
⑥［ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ］画面に戻りますので、［OK］ボタンをクリックします。

Windows XP（つづき）

6 ［詳細設定］メニューの［ネットワークＩＤ］をクリックします。

7 ［フル コンピュータ名］と［ワークグループ］が以下となっていることを確認してください。

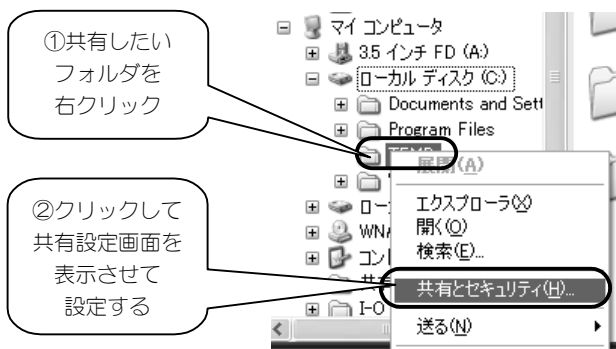
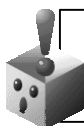
フル コンピュータ名	ネットワーク上のそれぞれのパソコンを識別するための名前。（それぞれのパソコンで別々な固有の名前を設定します。）※
ワークグループ	ネットワーク上でグループ分けするための名前。（同じグループではすべて同じグループ名を指定します。）※ 本製品を使って接続する同一ネットワーク上のすべてのパソコンで同じものを指定してください。

※相手のコンピュータが見えない等のトラブルを未然に防ぐため、半角英数字の使用をおすすめします。

変更が必要な場合は、［変更］ボタンをクリックして、変更してください。

Windows XP（つづき）

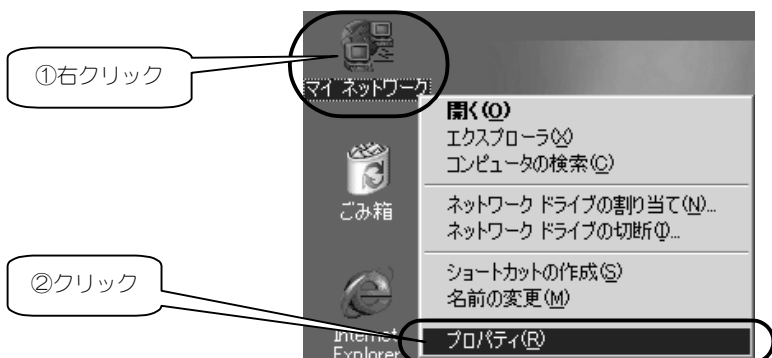
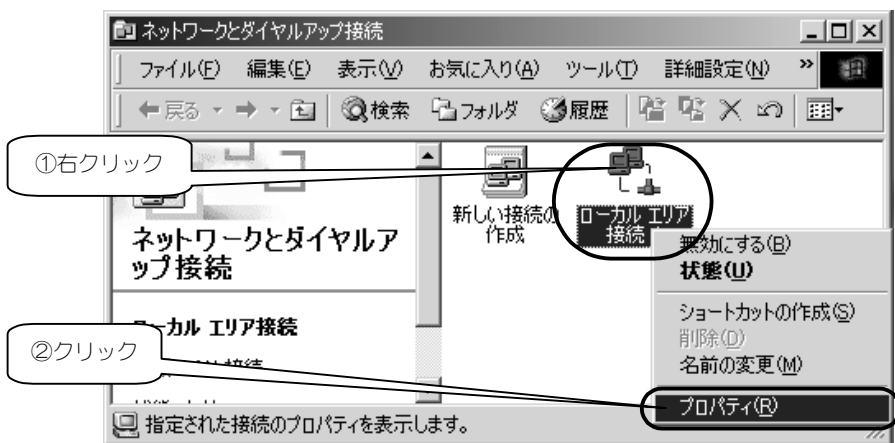
8 **このパソコンにあるドライブやフォルダあるいはプリンタをネットワーク上の別のパソコンで使いたい（共有したい）場合は、共有の設定をします。**

詳細はWindows XPのヘルプを参照してください。

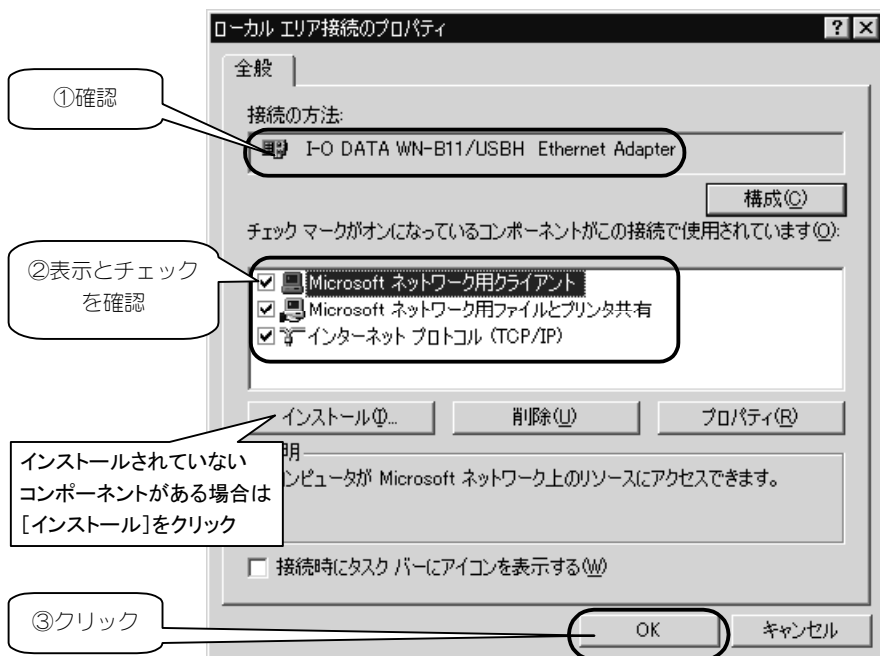
例：エクスプローラ上からの共有の設定

9 **後は、［マイネットワーク］→［近くのコンピュータ］を順にダブルクリックすれば、本製品を装着した他のコンピュータ名や共有したフォルダ名等が表示されます。**

【困ったときには】の
85 ページをご覧ください。

以上で設定は完了です。

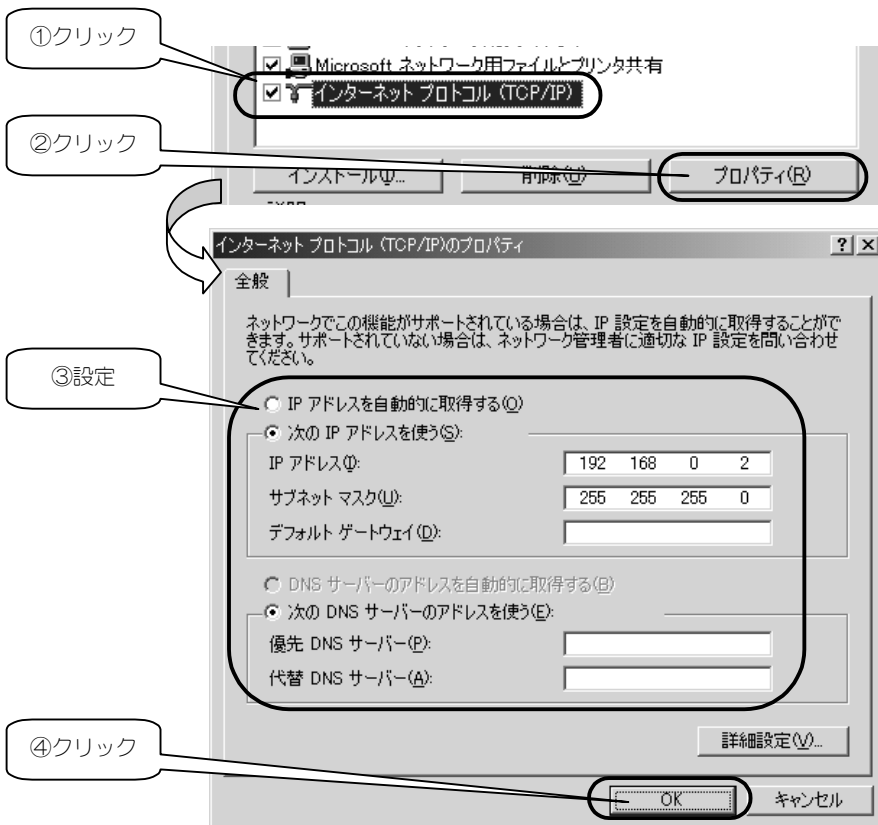
Windows 2000

1 **[マイ　ネットワーク]を右クリックして、[プロパティ]をクリックします。**

2 **[ローカルエリア接続]を右クリックして、[プロパティ]をクリックします。**

Windows 2000（つづき）

3 以下が表示され、チェックされていることを確認します。
確認後、[OK] ボタンをクリックします。

① [I-O DATA WN-B11/USBH Ethernet Adapter] の表示
② [Microsoftネットワーク用クライアント] のチェック
[Microsoftネットワーク用ファイルとプリンタ共有] のチェック
[インターネットプロトコル（TCP/IP）] のチェック
③ [OK] ボタンをクリックします。

Windows 2000（つづき）

4 IPアドレスを設定します。

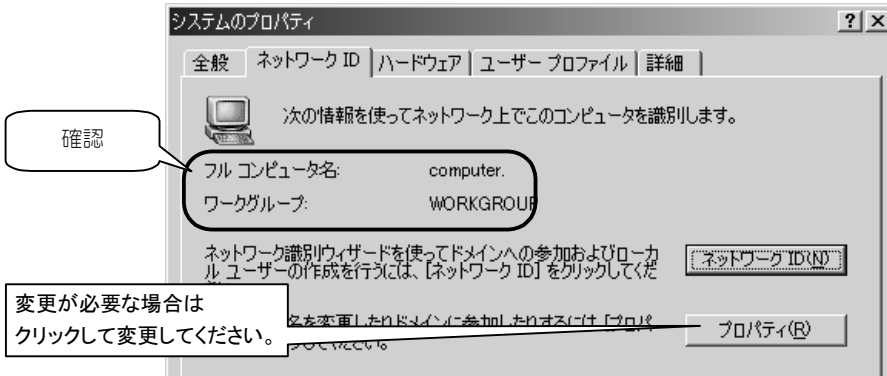
①［インターネットプロトコル（TCP/IP）］をクリックします。
②［プロパティ］ボタンをクリックします。
③【IPアドレスを確認する】（103ページ）で確認したIPアドレスを入力します。
④［OK］ボタンをクリックします。

Windows 2000（つづき）

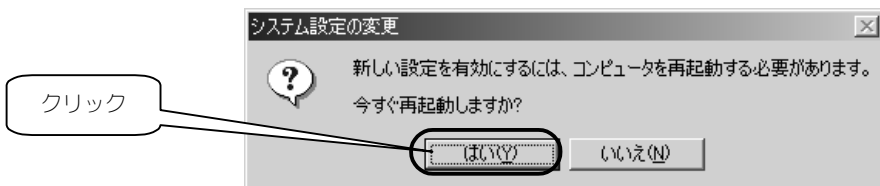
5 ［詳細設定］メニューの［ネットワークＩＤ］をクリックします。

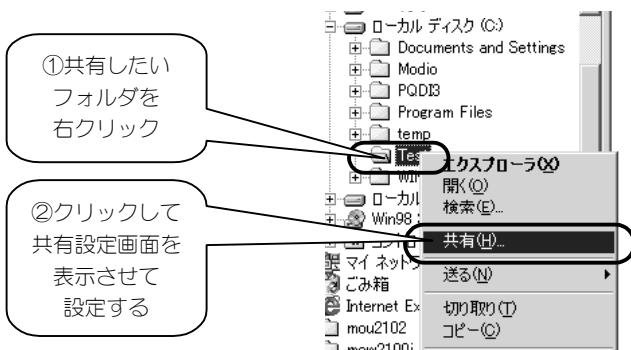
6 ［フル コンピュータ名］と［ワークグループ］が以下となっていることを確認してください。

フル コンピュータ名	ネットワーク上のそれぞれのパソコンを識別するための名前。（それぞれのパソコンで別々な固有の名前を設定します。）※
ワークグループ	ネットワーク上でグループ分けするための名前。（同じグループではすべて同じグループ名を指定します。）※ 本製品を使って接続する同一ネットワーク上のすべてのパソコンで同じものを指定してください。

※相手のコンピュータが見えない等のトラブルを未然に防ぐため、半角英数字の使用をおすすめします。

変更が必要な場合は、［プロパティ］ボタンをクリックして、変更してください。

Windows 2000（つづき）

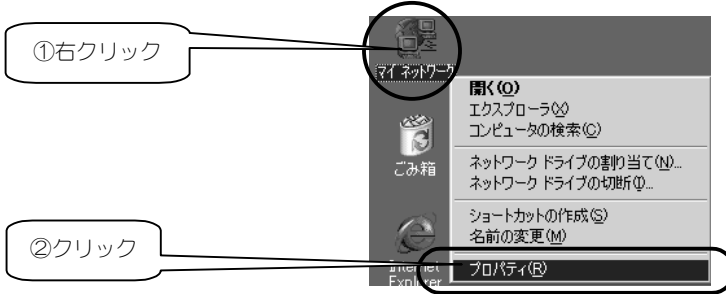
7 [はい]ボタンをクリックして、パソコンを再起動してください。

8 このパソコンにあるドライブやフォルダあるいはプリンタをネットワーク上の別のパソコンで使いたい（共有したい）場合は、共有の設定をします。（詳細はWindows 2000のヘルプを参照してください。）

（エクスプローラ上からの共有の設定）

9 ［マイネットワーク］→［近くのコンピュータ］を順にダブルクリックすれば、本製品を装着した他のコンピュータ名や共有したフォルダ名等が表示されます。

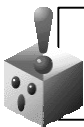
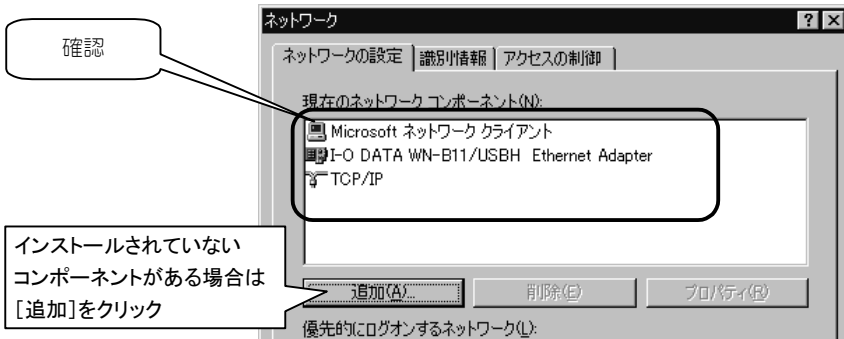
【困ったときには】の
85 ページをご覧ください。

以上で設定は完了です。

Windows Me/98

1 [マイ ネットワーク](ネットワークコンピュータ)を右クリックして、[プロパティ]をクリックします。

2 以下(のコンポーネント)が表示されているかを確認します。

- [Microsoftネットワーククライアント]
- [I-O DATA WN-B11/USBH Ethernet Adapter]
- [TCP/IP]
- [Microsoftネットワーク共有サービス]

※[TCP/IP]と表示されずに、[TCP/IP->I-O DATA WN-B11/USBH Ethernet Adapter]と表示されている場合もあります。

【困ったときには】の89ページをご覧ください。

Windows Me/98（つづき）

3 IPアドレスを設定します。

① [TCP/IP]（あるいは [TCP/IP->I-O DATA WN-B11/USBH Ethernet Adapter]）をクリックします。

② [プロパティ] ボタンをクリックします。

③【IPアドレスを確認する】（103ページ）で確認したIPアドレスを入力します。

④ [OK] ボタンをクリックします。

①クリック

[TCP/IP->I-O DATA WN-B11/USBH Ethernet Adapter] と表示されている場合もあります。

②クリック

③設定

④クリック

TCP/IPのプロパティ

バインド | 詳細設定 | NetBIOS | DNS 設定 | ゲートウェイ | WINS 設定 | IP アドレス

IP アドレスは DHCP サーバーによって自動的にこのコンピュータに割り当てられます。ネットワークが自動的に IP アドレスを割り当てない場合は、ネットワーク管理者がアドレスを割り当てます。次にアドレスを入力してください。

○ IP アドレスを自動的に取得する(O)

◉ IP アドレスを指定する(S)

IP アドレス(I): 192 . 168 . 0 . 2

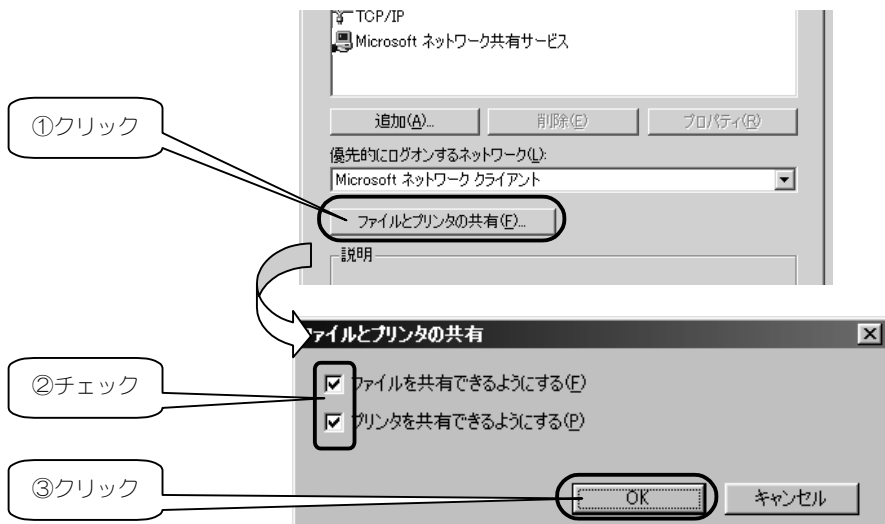
サブネット マスク(U): 255 . 255 . 255 . 0

☑ ネットワーク メディアへの接続を検出する(D)

OK　キャンセル

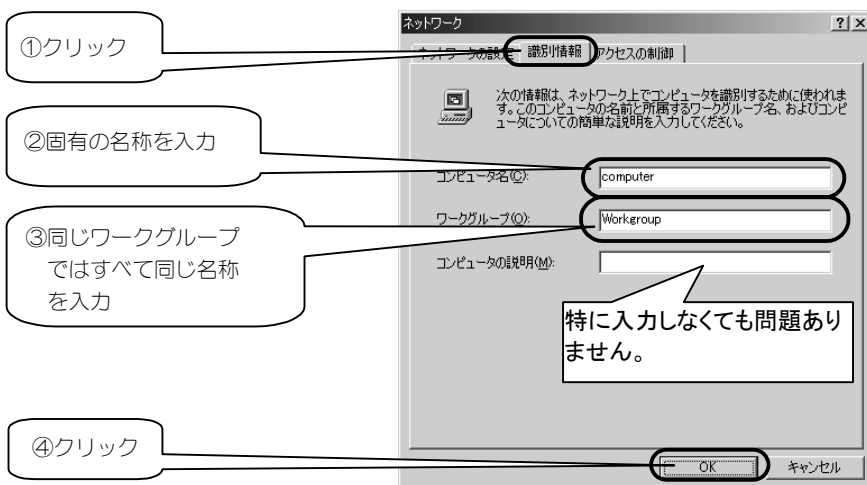
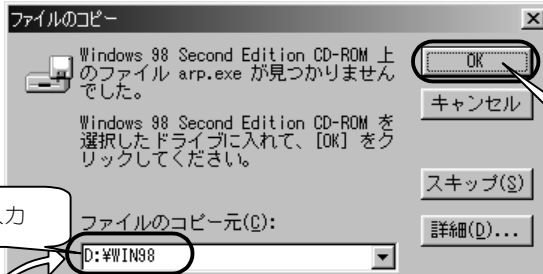
Windows Me/98（つづき）

4　このパソコンにあるドライブやフォルダあるいはプリンタをネットワーク上の別のパソコンで使いたい（共有したい）場合は、共有の設定をします。

［ファイルとプリンタの共有］ボタンをクリックし、共有したい項目をチェックします。チェック後、［OK］ボタンをクリックします。

Windows Me/98（つづき）

5 **［識別情報］タブをクリックして、［コンピュータ名］と［ワークグループ］に以下を入力し、［OK］ボタンをクリックしてください。**

コンピュータ名	ネットワーク上のそれぞれのパソコンを識別するための名前。（それぞれのパソコンで別々な固有の名前を設定します。）※
ワークグループ	ネットワーク上でグループ分けするための名前。（同じグループではすべて同じグループ名を指定します。）※ 本製品を使って接続する同一ネットワーク上のすべてのパソコンで同じものを指定してください。

※相手のコンピュータが見えない等のトラブルを未然に防ぐため、半角英数字の使用をおすすめします。

⇒次のような画面が表示された場合は…

①WindowsのCD-ROMを挿入します。

②［OK］ボタンをクリックします。

Windows Me/98（つづき）

⇒以下のような画面が表示された場合は…

ファイルのコピー

Windows 98 Second Edition CD-ROM 上のファイル arp.exe が見つかりませんでした。

Windows 98 Second Edition CD-ROM を選択したドライブに入れて、[OK] をクリックしてください。

OK　キャンセル　スキップ(S)　詳細(D)...

ファイルのコピー元(C):　D:¥WIN98

①入力　②クリック

［ファイルのコピー元］に以下を入力し、［OK］ボタンをクリックします。

・Windows 98をご自分でインストールした場合

D:¥WIN98　（CD-ROMドライブがDドライブの場合）

・Windows 98あるいはWindows 95プリインストールパソコンをお使いの場合

Windowsがインストールされているドライブの

¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS

ファイルのコピー元(C):　C:¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS

Windows 98やWindows 95が Cドライブにプリインストールされている場合の入力例

・他のWindowsからWindows Meへアップグレードインストールした場合（CD-ROMからWindows Meをインストールした場合）

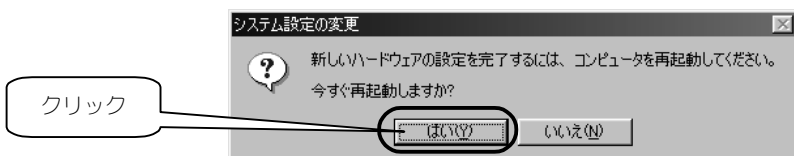
C:¥WINDOWS¥OPTIONS¥INSTALL

注意！

以下のアップグレードをした場合は、「C:¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS」は選択せず、CD-ROM ドライブを参照してください。

- **Windows 95 プリインストールモデルを、Windows 98（Second Edition 含む）へアップグレードした場合**
- **Windows 98プリインストールモデルをWindows 98 Second Editionへアップグレードした場合**

Windows Me/98（つづき）

6 [はい]ボタンをクリックして、パソコンを再起動してください。

7 このパソコンにあるドライブやフォルダあるいはプリンタをネットワーク上の別のパソコンで使いたい（共有したい）場合は、共有の設定をします。（詳しくは、Windowsのヘルプをご覧ください。）

（エクスプローラ上からの共有の設定）

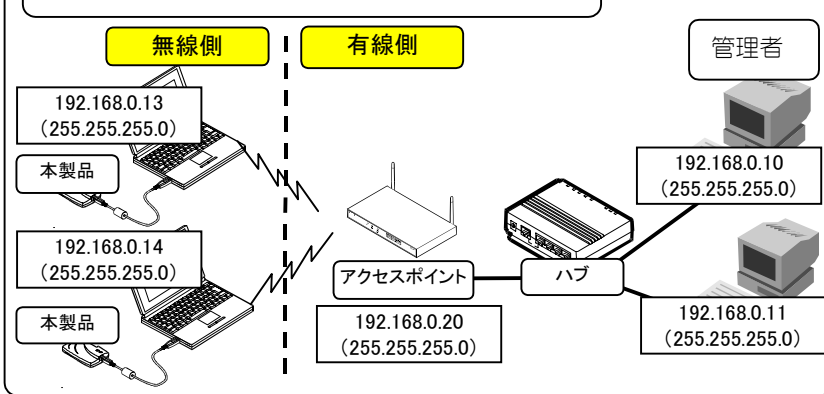
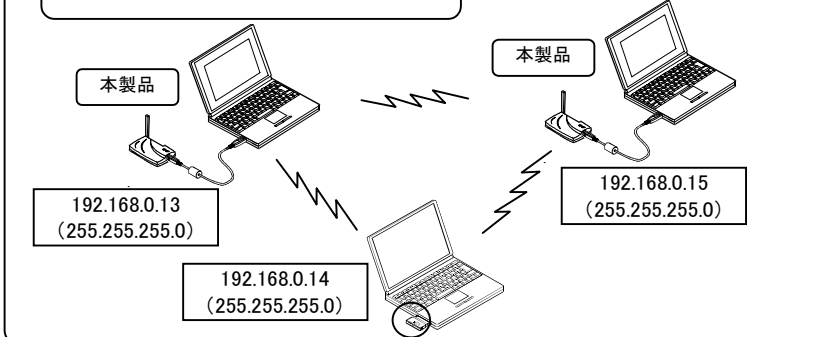
8 ［マイネットワーク］（ネットワークコンピュータ）をダブルクリックすれば、本製品を装着した他のコンピュータ名や共有したフォルダ名が表示されます。

【困ったときには】の
85 ページをご覧ください。

以上で設定は完了です。

具体的なIPアドレスの設定例

以下はIPアドレスの設定例です。

内の上段はIPアドレス
内の下段はサブネットマスク

上図は、IP アドレスを固定した場合の例です。自動取得に設定している場合で、DHCP サーバーが存在しない場合は、「169.254.xxx.xxx」というアドレスが自動生成されます。

IPアドレスのクラス

IPアドレスは、ネットワークを構成するパソコンの台数に応じて、３つのクラスに分かれます。
大規模なネットワークならば［クラスAのIPアドレス］、中規模なら［クラスBのIPアドレス］、小規模の場合は［クラスCのIPアドレス］となります。
同一のネットワーク内では、同一クラスのIPアドレスである必要があります。
実際には、IPアドレスは、ピリオドで区切られた４つの数字の羅列で構成されていて、４つのうち最初の数字で、クラスが分けられます。

クラスは以下のように分類されています。

IP アドレスの最初の数字※	クラス	用途（ネットワークを構成するパソコンの台数）
１～１２７	クラスA	大規模ネットワーク用（最大約 1600 万台）
１２８～１９１	クラスB	中規模ネットワーク用（最大約 65000 台）
１９２～２２３	クラスC	小規模ネットワーク用（最大約 250 台）

※「224～255」は通常の IP アドレスとしては使われていません。

例えば、数台～数十台で構成されるネットワークでは、クラスCのIPアドレスを使用します。
通常、ネットワークを構成する場合は、以下の特別なローカルIPアドレスを使用します。

クラス	設定する IP アドレス
クラスA	10.0.0.0 ～ 10.255.255.255
クラスB	172.16.0.0 ～ 172.31.255.255
クラスC	192.168.0.0 ～ 192.168.255.255

IPアドレスの設定の確認

パソコンに設定しているIPアドレスの確認や、パソコン間での正常な通信（接続）の確認は、Windows標準のコマンドで行うことができます。

●設定したIPアドレスの確認方法

・Windows XPの場合

1. [スタート]→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[コマンドプロンプト]をクリックします。
2. IPCONFIG と入力し、[ENTER]キーを押します。
3. IPアドレスが正常に表示されるか確認してください。

・Windows 2000の場合

1. [スタート]→[プログラム]→[アクセサリ]→[コマンドプロンプト]をクリックします。
2. IPCONFIG と入力し、[ENTER]キーを押します。
3. IPアドレスが正常に表示されるか確認してください。

・Windows Me/98の場合

1. [スタート]→[ファイル名を指定して実行]をクリックします。
2. [名前]に WINIPCFG を入力し、[OK]ボタンをクリックします。
3. お使いのアダプタを選択し、IPアドレスが正常に表示されるか確認してください。
   [IPアドレス]が「0.0.0.0」と表示された場合は、正常にIPアドレスが設定されていません。

●通信や接続が正しくできるかの確認方法(PINGコマンド)

Windows標準のPINGコマンドを使用して相手先のパソコンに正常に通信、あるいは接続が正常かを確認することができます。

以下で使用するPINGコマンドを使用するには、パソコンにTCP/IPがインストールされている必要があります。

1 [MS-DOSプロンプト](またはコマンドプロンプト)を起動します。

・Windows XPの場合
　[スタート]→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→
　[コマンドプロンプト]を順にクリックして起動します。
・Windows 2000の場合
　[スタート]→[プログラム]→[アクセサリ]→
　[コマンドプロンプト]を順にクリックして起動します。
・Windows Meの場合
　[スタート]→[プログラム]→[アクセサリ]→
　[MS-DOSプロンプト]を順にクリックして起動します。
・Windows 98の場合
　[スタート]→[プログラム]→[MS-DOSプロンプト]
　を順にクリックして起動します。

2 以下のように入力し、[ENTER]キーを押します。

PING xxx.xxx.xxx.xxx(xxx.xxx.xxx.xxxは相手先のIPアドレス)

入力例)　相手先のIPアドレスが「192.168.0.10」の場合は以下のように入力します。
PING　192.168.0.10

3 正常に相手先が表示されるか確認してください。

正常なら「Reply from xxx.xxx.xxx.xxx」などと表示されます。
正常に接続されない場合、「Request timed out」や「Destination host unreachable」などと表示されます。

本製品のMACアドレスについて

MACアドレスは、本製品裏面のラベルの下側に記載されています。
（MACアドレスは、“00 A0 B0”から始まる12桁の英数字です。）

MAC アドレスとは…

個々の通信機器に固有のアドレスで、製品名毎ではなく、個々の製品すべてにおいて別々の番号です。
48bit の長さを持ち、世界中において重複することのないアドレスです。

用語解説

Ad hoc［アドホック］

アクセスポイントを介さずに、パソコン同士が直接通信しあう形態です。
他にインフラストラクチャモード（Infrastructure mode）があります。

DHCPサーバ（Dynamic Host Configuration Protocol Server）

各クライアントやEthernet機器へ起動時に動的にIPアドレスを割り当て、
終了時にIPアドレスを回収するためのプロトコルです。
同時にゲートウェイアドレスやドメイン名、サブネットマスクその他の情報を
ネットワーク上のクライアントやEthernet機器へ通知することもできます。

この動的にIPアドレスの割当を行う側の機器がDHCPサーバと呼ばれます。
ダイアルアップルータ等の機器もDHCPサーバの機能を持っています。

DS-SS［直接拡散・スペクトラム拡散］

無線通信における変調方式の１つです。
干渉がおきにくい、ノイズの影響を受けにくい、などの特徴があります。

Ethernet［イーサネット］

米国ゼロックス社、ディジタル・イクイップメント社、インテル社によって開発されたネットワーク通信方式です。当初この方式は、基礎帯域伝達、CSMA/CDアクセス、論理バストポロジー、同軸ケーブルを使用して構成されていました。
後にIEEE802.3として規格化され、光ファイバー、広周波数帯域、ツイストペアで運用するリピータなどを使って拡張する追加機能が定義されました。

IEEE802.11

無線LANの国際的な標準規格です。
IEEE802.11bでは、通信速度が11Mbpsまで拡張されています。

Infrastructure［インフラストラクチャ］

アクセスポイントを介して通信する形態です。

MACアドレス（Media Access Control Address）

Ethernet機器ごとの固有の物理アドレスです。
MACアドレスは、先頭からの３バイトのベンダーコードと残り３バイトのユーザコードの６バイトで構成されています。
ベンダーコードはIEEEが管理／割当を行っており、ユーザコードは、Ethernet機器のメーカーが独自の番号（重複することのない）で管理を行い、世界中で単一のアドレスが割り当てられています。
Ethernetではこのアドレスを元にしてフレームの送受信を行っています。

Mbps（Megabits per second）［メガビーピーエス］

１秒間に伝送するデータの単位です。
11Mbpsは１秒間に11メガビットのデータを伝送できます。

SS ID（Service Set ID）［エスエスアイディー］

複数の無線ネットワークが存在する場合に、それらをグループ化するための識別子（ID）です。
SS IDが一致していないとそのネットワークには参加できません。

TCP/IP（Transmission Control Protocol/Internet Protocol）

主にインターネット上などで使用される基本プロトコルの１つです。

WEP（Wired Equivalent Privacy）

IEEE802.11bに含まれる標準の暗号化方式です。
各無線通信機器同士が共通の暗号鍵を使用して通信データを暗号化します。
暗号鍵を知らないパソコンは通信に参加することができません。

アクセスポイント

インフラストラクチャモード（Infrastructure mode）での通信の中継点となるポイントです。
他のパソコンでは、アクセスポイントと通信することで他のパソコンと通信します。
有線LANと無線LANの中継点ともなります。

チャンネル

無線通信では、使用する周波数帯域を分割して、それぞれの帯域で異なる通信を行うことができます。
チャンネルとは、その分割された個々の周波数帯域のことです。

ピアツーピア接続

サーバ／クライアントのような上下関係の無い対等な関係で行う通信のことです。

ローミング機能

複数のアクセスポイントを設置した環境で、各アクセスポイントのサービスエリア間を移動した場合に、自動的にアクセスポイントを切り替える機能です。
その場合、それぞれのアクセスポイントのSS IDとWEPが同じ設定である必要があります。

仕様

項目	仕様
商品名	IEEE802.11b 無線LANアダプタ USBタイプ
製品型番	WN-B11/USBH
規格	IEEE802.11, IEEE802.11b RCR STD-33, ARIB STD-T66
周波数帯域	2.4GHz帯 (2.412〜2.4835GHz)
チャンネル	1ch〜14ch
伝送方式	直接拡散・スペクトラム拡散方式(DS-SS)
伝送速度	1Mbps, 2Mbps, 5.5Mbps, 11Mbps
変調方式	1Mbps : DBPSK 2Mbps : DQPSK 5.5Mbps,11Mbps : CCK
無線設備の種別	小電力データ通信システム
データ到達距離（最大）	屋内：約100m、屋外：約300m ※環境条件により変化します。
セキュリティ方式	WEP (Wired Equivalent Privacy), SS ID (Service Set ID) ※SS IDはアクセスポイント使用時
アクセス方式	アドホック (Ad hoc) インフラストラクチャ (Infrastructure) ※インフラストラクチャはアクセスポイント使用時
アンテナ方式	ダイポール・アンテナ
ＬＥＤ表示	Power、Linkランプ
ホストインターフェイス	USB 1.1
使用電源	DC5V
消費電流	500mA (最大)
使用温度範囲	0℃〜+40℃
使用湿度範囲	20%〜80% (結露しないこと)
外形寸法	102.0 (W) mm×72.0 (D) mm×20 (H) mm (突起部含まず)
質量	約70g
適応規格	VCCI CLASS B、TELEC

アフターサービス

① まず、弊社ホームページをご確認ください。

本書【困ったときには】で解決できない場合は、サポートWebページ内の「製品Q&A、Newsなど」もご覧ください。過去にサポートセンターに寄せられた事例なども紹介されています。

http://www.iodata.jp/support/

製品Ｑ＆Ａ
Newsなど

添付のサポートソフトをバージョンアップすることで解決できる場合があります。下記の弊社サポート・ライブラリから最新のサポートソフトをダウンロードしてお試しください。

http://www.iodata.jp/lib/

最新
サポートソフト

② それでも解決できない場合は…

住所：　〒920-8513　石川県金沢市桜田町2丁目84番地
アイ・オー・データ第2ビル
株式会社アイ・オー・データ機器　PLANTコールセンター
電話：　本社…076-260-3644　東京…03-3254-1144
※受付時間　9:30～19:00 月～金曜日（祝祭日を除く）
FAX：　本社…076-260-3360　東京…03-3254-9055
インターネット：　http://www.iodata.jp/support/

・お知らせいただく事項について

PLANTコールセンターへお問い合わせいただく際は、事前に以下の事項をご用意ください。

1．ご使用の弊社製品名
2．ご使用のパソコン本体の型番
3．ご使用のOSとサポートソフトのバージョン
4．トラブルが起こった状態、トラブルの内容、現在の状態（画面の状態やエラーメッセージなどの内容）

修理について

修理の前に

故障かな？と思ったときは、
①本書をもう一度ご覧いただき、設定などをご確認ください。
②弊社PLANTコールセンターへお問い合わせください。
（【PLANTコールセンターへのお問い合わせ】をご覧ください）

故障と判断された場合は、下記内容を参照して、本製品をお送りください。

修理について

本製品の修理をご依頼される場合は、以下の事項をご確認ください。

●お客様が貼られたシールなどについて

修理の際に、製品ごと取り替えることがあります。
その際、表面に貼られているシールなどは失われますので、ご了承ください。

●修理金額について

・保証期間中は、無料にて修理いたします。
ただし、ハードウェア保証書に記載されている「保証規定」に該当する場合は、有料となります。

※保証期間については、ハードウェア保証書をご覧ください。

・保証期間が終了した場合は、有料にて修理いたします。

※弊社が販売終了してから一定期間が過ぎた製品は、修理ができなくなる場合があります。

・お送りいただいた後、有料修理となった場合のみ、往復はがきにて修理金額をご案内いたします。
修理するかをご検討の上、検討結果を記入してご返送ください。
（ご依頼時にFAX番号をお知らせいただければ、修理金額をFAXにて連絡させていただきます。）

修理について（つづき）

修理品の依頼

本製品の修理をご依頼される場合は、以下を行ってください。

●メモに控え、お手元に置いてください

お送りいただく製品の製品名、ハードウェアシリアルNO.、お送りいただいた日時をメモに控え、お手元に置いてください。

●これらを用意してください

・必要事項を記入した本製品のハードウェア保証書（コピー不可）
　※ただし、保証期間が終了した場合は、必要ありません。
・下の内容を書いたもの
　返送先［住所/氏名/(あれば)FAX番号］,日中にご連絡できるお電話番号,ご使用環境（機器構成、OSなど）,故障状況（どうなったか）

●修理品を梱包してください

・上で用意した物を修理品と一緒に梱包してください。
・輸送時の破損を防ぐため、ご購入時の箱・梱包材にて梱包してください。
　※ご購入時の箱・梱包材がない場合は、厳重に梱包してください。

●修理をご依頼ください

・修理は下の送付先までお送りくださいますようお願いいたします。
　※ 原則として修理品は弊社への持ち込みが前提です。送付される場合は、発送時の費用はお客様ご負担、修理後の返送費用は弊社負担とさせていただきます。
・送付の際は、紛失等を避けるため、宅配便か書留郵便小包でお送りください。

送付先　〒920-8513 石川県金沢市桜田町2丁目84番地
アイ・オー・データ第2ビル
株式会社アイ・オー・データ機器　修理係　宛

修理品の返送

・修理品到着後、通常約１週間ほどで弊社より返送できます。
　※ただし、有料の場合や、修理内容によっては、時間がかかる場合があります。